

# 静岡県立大学

看護学部・研究科報

2021 年度

# 目次

I. はじめに	4
II. 看護学部の歴史	5
1. 歴史	5
III. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成	7
1. 学部の教員構成	7
2. 研究科の教員構成	8
3. 年度途中着任の教員	9
4. 令和3年度全学委員会一覧	9
5. 学部委員会	10
6. 学部・研究科合同委員会	10
7. 研究科委員会	10
IV. 看護学部・看護学研究科の教育課程	11
1. 学部	11
1) 学部の理念	11
2) 教育目標	11
3) ディプロマ・ポリシー	11
4) カリキュラム・ポリシー	12
5) アドミッション・ポリシー	13
6) 学部カリキュラム	14
2. 研究科	25
1) 教育理念	25
2) 博士前期課程	25
3) 博士後期課程	26
4) 研究科カリキュラム	28
3. 臨地実習表	31
1) 看護コミュニケーション実習	31
2) 看護アセスメント実習	32
3) 3年次後期臨地実習配置表	33
4) 臨床シミュレーション EBN 実習	34
5) 公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業）	36
6) 国際保健・看護実習	37
7) 大学院修士課程助産学分野 助産学関連実習	37
4. 学生の研究	39
1) 学部の指導體制と研究テーマ	39

2) 研究科の指導体制と研究テーマ	48
V. 学生生活	50
1. 学生定員および在学学生数	50
1) 学部	50
2) 研究科	51
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	52
1) 学部	52
2) 研究科	53
3. 卒業・修了者の進路状況	54
1) 学部	54
2) 研究科	55
4. 免許・資格などの取得状況	56
VI. 国際交流	57
1. 令和3年度国際交流等事業	57
2. 国際保健・看護実習	58
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	59
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	59
1) 専門基礎領域の活動	59
2) 環境看護学領域の活動	60
3) 基礎看護学領域の活動	61
4) 成人看護学領域の活動	63
5) 老年看護学領域の活動	66
6) 小児看護学領域の活動	68
7) 母性看護学・助産学領域の活動	70
8) 精神看護学領域の活動	75
9) 公衆衛生看護学領域の活動	77
10) 在宅看護学領域の活動	79
11) 国際看護学領域の活動	81
2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動	84
1) 研究活動	84
2) 外部資金受け入れ	98
3) 令和3年度学部研究推進費等	103
4) 海外研修活動	108
5) その他特記事項	108
VIII. 学部・研究科としての社会貢献	109
1. 国・地方自治体における活動	109

2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	112
3. 学会・シンポジウム等の主催	115
4. 雑誌編集関連委員	115
5. 雑誌の査読	117
6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等	119
7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等	123
8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説	124
9. 新聞等メディアへの掲載・出演	124
10. その他活動	126
11. 静岡県立大学新型コロナウイルスワクチン職域接種従事者	129
12. 「県民の日」事業	129
13. 高大連携による講師派遣等	130
14. 公開講座等の開催状況	132
IX. 看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について	133
1. 設置の趣旨	133
2. センターの設立概要	133
3. センターの設置時期	134
4. センターの運営	134
5. 特定行為研修	135
6. その他センターの運営事業	137
(別添) 看護師特定行為研修の概要（一部抜粋）	138

## I. はじめに

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、看護学部の授業は、感染対策を徹底し、また学部が主導して希望する学生に対してワクチン接種をすることで、ほとんどの授業を対面で行うことができました。臨地実習については、後援会の支援を受けてPCR検査を実施したり、実習病院を変更したりすることで、できるだけ臨地で実習が行えるように調整しました。しかしながら感染状況によっては、学内実習に切り換えた科目もありました。また、次年度からの指定規則改正に伴い、4月に新しいカリキュラムを文部科学省に申請して9月に承認が降りました。新しいカリキュラムでは、社会のニーズに沿った新たな科目を新設すると共に保健師教育を60名選抜制としました。国際交流については、コロナ禍であっても、COIL授業を実施しすることで活発な交流を継続することができました。社会貢献では、学部教員が取得している資格を活かして、多くの教員が、大学で行われたワクチンの職域接種の準備や運営に携わることができました。一方、看護実践教育研究センターでは、今年度から特定行為研修が始まり、教育体制が整備されて、1名の修了生を無事に送り出すことができました。1年間、看護学部の運営にご尽力くださいました教員および事務職員の皆様に心から感謝申し上げます。

大学院看護学研究科において2021年度当初に取り上げた重点課題は、①2020年度に開設した博士後期課程における教育課程の着実な運営、②指定規則の一部改正に伴う令和4年度からの助産学課程のカリキュラム改正の変更申請、③社会人学生が働きながら学べる環境の整備の3項目でした。これらのすべては、本研究科委員会、各委員会の積極的な活動により順調に達成へと進んでいます。博士後期課程では、教育課程の着実な運営はもとより、3割の学生が本研究科の博士前期課程を修了生であることは喜ばしいことです。学士・修士・博士課程という体系化した看護学教育を開始できたと考えております。また、助産学課程のカリキュラム改正は、文部科学省より無事に認可を受け、開始に向けての準備を進めています。さらに、コロナ禍の影響で導入したオンライン双方向授業方式を活用し、博士前期・後期課程のほとんどの科目において、対面方式とオンライン双方向形式を組み合わせたハイブリット授業形式を開始しました。長期履修制度とともに、複数人の学生が活用し好評を得ています。これらの活動には、本研究科教員だけでなく、学長をはじめ他部局の先生方、事務の皆様にも多大なご支援、ご協力をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。

今後、継続して課題達成に取り組み、大学・大学院教育の質の担保とさらなる充実を目指していきます。

最後に、学部・研究科報作成にあたりご協力いただいた教員の皆様に御礼申し上げます。

静岡県立大学 看護学部長 太田尚子  
大学院 看護学研究科長 山田紋子

## Ⅱ. 看護学部の歴史

### 1. 歴史

---

#### 主な出来事

昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	<b>看護学部看護学科が設置される。</b> 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。 (セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	<b>大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。</b> 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加。
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。

平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。
		第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。
平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。
		第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。
		第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。
		看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。
		第 8 代研究科長に渡邊順子が就任する。
平成 30 年	4 月	編入学定員を 25 人に増員する。
平成 31 年	4 月	第 10 代学部長に太田尚子が就任する。
		第 9 代研究科長に山田紋子が就任する。
令和 2 年	4 月	看護学研究科博士後期課程が設置される。
令和 2 年	12 月	看護学部附属看護実践教育研究センターが設置される。 (初代センター長に荒井孝子教授が就任する)
令和 3 年	2 月	看護師の特定行為に係る「特定行為研修指定研修機関」に指定される。(厚生労働省医政局 指定研修機関番号 2122010)

### Ⅲ. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

#### 1. 学部の教員構成

表 3-1-1 R3年度 学部の教員構成

※ (R4年3月31日現在)

領 域	担当教員			
	教授	准教授	講師	助教
専門基礎	井上健一郎 (呼吸器病学)	堀芽久美	濱井妙子 (薬学、国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学) ヘムストック・ ウェンディ・ リアン
環境看護学	荒井孝子			
基礎看護学	操華子			
		山口みのり 永谷幸子	管原清子 加藤京里	倉本直樹
成人看護学	田中範佳 山田紋子 林みよ子		前野真由美	中岡正昭 松裏 豊 鈴木郁美 日當聡志
老年看護学	深江久代 (特任教授)	成瀬早苗		飯塚真樹 宮澤典子
精神看護学	篁 宗一	長澤利枝		近藤美保 遠藤りら
小児看護学	山下早苗	鈴木和香子		池田麻左子 丸山始美
母性看護・助産学	太田尚子	中川有加 藤田景子	福島恭子 永谷実穂	高木 静 大和田裕美
公衆衛生看護学	畑中純子	杉山眞澄 鈴木千智	佐藤瑠美	栗田真由美 安藤継子 伊藤純子
在宅看護学	富安眞理		加納江理	膽畑敦子 榊みのり
国際保健・看護学	渡邊順子 (特任教授)		根岸まゆみ	



## 2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 R3 年度 研究科の教員構成

※ (R4 年 3 月 31 日現在)

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	必修	操華子 富安眞理 山田紋子 田中範佳		
	看護学共通科目	井上健一郎 操華子 田中範佳 篁 宗一 山下早苗 太田尚子 富安眞理 渡邊順子 (特任教授)		
専門科目	基盤看護学	☆渡邊順子 (特任教授) ☆荒井孝子 ☆操 華子	山口みのり 永谷幸子	
	実践看護学	☆田中範佳 ☆山田紋子 ☆林みよ子 ☆山下早苗 ☆太田尚子	中川有加 ☆藤田景子 鈴木和香子	
	広域看護学	☆富安眞理 ☆篁 宗一 ☆畑中純子	鈴木千智 成瀬早苗 堀芽久美	
	助産学課程	☆太田尚子	☆中川有加 ☆藤田景子	福島恭子 永谷実穂 (助教) 高木 静 (助教) 大和田裕美

☆主指導教員

### 3. 年度途中退任の教員

表 3-3-1 令和 3 年度途中退任教員

※（令和 4 年 3 月 31 日現在）

区分	職名	退任月日	氏名
—	—	—	—

### 4. 令和 3 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	ハラスメント相談員
留学生委員会	はばたき寄金運営委員会
入学者選抜委員会	発明委員会
入学者選抜実施委員会	開学記念行事実行委員会
個別学力検査問題検討委員会	施設の有効利用に関する委員会
自己評価委員会	感染症管理対策委員会
共同利用機器運営委員会	感染症流行検討部会
キャリア支援センター委員会	中期・年度計画推進委員会
学生委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
教務委員会	FD 委員会
教務管理部各部会組織	情報センター運営委員会
図書館情報委員会	情報セキュリティ管理責任者
保健衛生委員会	情報セキュリティ管理者
教職課程委員会	利益相反委員会
研究倫理委員会	男女共同参画委員会
公開講座委員会	小鹿キャンパス防災委員
国際交流委員会	COC センター運営委員
環境安全委員会	地域貢献・産学官連携推進会議委員
RI 取り扱い管理委員会 (放射線安全委員会)	SDGs イニシアティブ推進委員会
動物実験センター運営委員会	「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」に 基づく学内選考委員会
ハラスメント防止・対策委員会	教育研究組織将来計画委員会

全学委員会名	
ハラスメント緊急対策委員会	大学院協議会
教員人事委員会	公的研究費等適正管理推進委員会
教員活動評価委員会	臨床研究施設運営委員会
危機管理委員会	麻薬・向精神薬管理委員会

## 5. 学部委員会

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
入学者選抜実施委員会	FD 検討委員会
学部質保証委員会	—

## 6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	実習委員会
広報・企画委員会	教育環境整備委員会
合同カリキュラム検討委員会	研究倫理審査委員会

## 7. 研究科委員会

研究科委員会	
研究科教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
FD 委員会	研究科入学者選抜実施委員会
研究科質保証委員会	—

## IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

### 1. 学部

#### 1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

#### 2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

#### 3) ディプロマ・ポリシー

看護学部（以下、本学部という）は、133単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とします。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え

得る人材に学位を授与します。

1. 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。
4. 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
5. 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

#### 4) カリキュラム・ポリシー

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1. 基礎分野Ⅰ、2. 基礎分野Ⅱ、3. 専門基礎分野、4. 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

##### 1) 専門分野Ⅰ：

看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

##### 2) 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に

対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

### 3) 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

## 5) アドミッション・ポリシー

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援します。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求めます。

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

## 6) 学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	日本の歴史と文化
	フランス語入門		社会を変える手法：コミュニティ・オーガナイズング
	スペイン語入門		国際安全保障入門Ⅰ
	中国語入門		国際安全保障入門Ⅱ
	日本語作文 A		くらしと化学 A
	日本語作文 B		くらしと化学 B
	情報検索実習		基礎生命科学Ⅰ 【英語による科目】
	情報処理実習		基礎生命科学Ⅱ 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		現代日本文化入門 A 【英語による科目】
	ライティング基礎		現代日本文化入門 B 【英語による科目】
	ライティング実践		経営分析入門 A 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅰ		経営分析入門 B 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学Ⅰ A 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学Ⅰ B 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学Ⅱ A 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学Ⅱ B 【英語による科目】
第2部門 (概論)	自然科学概論	財務会計入門 A 【英語による科目】	
	化学入門	財務会計入門 B 【英語による科目】	
	生物学入門	言語の学習・習得Ⅰ A 【英語による科目】	
	薬剤発達史入門	言語の学習・習得Ⅰ B 【英語による科目】	
	物理学入門	言語の学習・習得Ⅱ A 【英語による科目】	
	環境科学入門	言語の学習・習得Ⅱ B 【英語による科目】	
	哲学入門	Japanology 【英語による科目】	
	社会思想史入門	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】	
	歴史学入門	静岡の防災と医療 【しずおか学】	
	宗教学入門	静岡地域食材学 A 【しずおか学】	
	社会学入門	静岡地域食材学 A 【しずおか学】	
	国際関係学入門	バイオ — 静岡から世界へ A 【しずおか学】	
	文化人類学入門	バイオ — 静岡から世界へ B 【しずおか学】	
	公共政策入門	茶学入門 【しずおか学】	
	心理学入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化 A 【しずおか学】	
	生涯発達心理入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化 B 【しずおか学】	
	生命倫理入門	ムセイオン静岡 — 世界の文化遺産 A 【しずおか学】	

知的財産管理入門	ムセイオン静岡 - 世界の文化遺産 B	【しずおか学】
	ムセイオン静岡 - 舞台芸術 A	【しずおか学】
	ムセイオン静岡 - 舞台芸術 B	【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 A	【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 B	【しずおか学】
	静岡の市民活動	【しずおか学】
	歴史から読み解くしずおか学 A	【しずおか学】
	歴史から読み解くしずおか学 B	【しずおか学】
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】
	静岡市連携・グローバル人材育成講義	【しずおか学】
	地域づくりの方法	【しずおか学】
	ふじのくに学(富士山)	【しずおか学】
	ふじのくに学(お茶)	【しずおか学】
	ふじのくに学(観光学)	【しずおか学】
	ふじのくに学(演劇論)	【しずおか学】
	ふじのくに学(南アルプスの自然)	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	【しずおか学】
	ふじのくに学(しずおか)	【しずおか学】
	ふじのくに学(農林業)	【しずおか学】
	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	【しずおか学】
総合科目	健康イノベーション教育プログラム (健康と食)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム (IT とデータの科学)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム (地域産業とマーケティング)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム (ビジネスモデル)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム (地域産業と SDGs)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム (ワークショップ(グループ実践演習))	【しずおか学】
	総合科目Ⅰ(キャリア形成概論Ⅰ)	
	総合科目Ⅱ(キャリア形成概論Ⅱ)	
	男女共同参画社会とジェンダー	
	人権が支える社会	
	グローバル政治経済事情	
	ジャーナリズム論	
キャリアと社会		
	高野山で学ぶキャリアとわたし	



## 授業科目一覧

(平成 26 年度以降の入学生用)

授 業 科 目 の 名 称		配 当 年 次	開 講 学 期	単 位 数		備 考	
				必 修	選 択		
授業科目の概要	第 1 部門 (リテラシーとスタディスキル)	1・ 2・ 3・ 4	前・ 後		各 2 〜 1	10 単位以上選択	
	第 2 部門 (概論)						
	第 3 部門 (現代教養)						
	総合科目						
学部基礎科目	運動	1 2	通 通		2 2		
	研修	1・ 2・ 3・ 4			2		
	教育	1・ 2・ 3・ 4			2		
		2	前		2		
授 業 科 目 の 名 称		配 当 年 次	開 講 学 期	単 位 数			備 考
				必 修	選 択		
授業科目の概要	主体性と判断力の育成	基礎セミナー	1	前	1		
		看護統合セミナー I	2	通	1		
	英語コミュニケーション	基礎英語 I	1	前	1		
		基礎英語 II	1	前	1		
		基礎英語 III	1	後	1		
		基礎英語 IV	1	後	1		
		英語コミュニケーション I	2	前	1		
		英語コミュニケーション II	2	後	1		
	心と体の理解	人間関係論	1	前	1		
		機能形態学 I	1	前	2		
		機能形態学 II	1	後	1		
		生物化学	1	前	1		
病理学		1	後	1			
微生物学		1	後	1			
	臨床薬理学	2	前	1			

			臨床栄養学	2	前	1				
			病態学Ⅰ（内科）	2	前	1				
			病態学Ⅱ（外科）	2	前	1				
			病態学Ⅲ（小児）	2	後	1				
			病態学Ⅳ（精神）	2	後	1				
			病態学Ⅴ（母性）	2	後	1				
			症候論	1	後	1				
			臨床検査・画像診断	2	前	1				
			基礎健康科学実習	1	後	2				
			臨床心理学	2	後		1	} 2単位選択		
			健康行動論	2	前		1			
			運動と健康の生理学	1	前		1			
	社会と健康の理解		健康と社会	1	前	2				
			現代社会論	1	前	1				
			社会福祉論	1	後	1				
			保健学	2	前	2				
			国際保健	1	後	1				
			保健福祉政策論	2	後	1				
			統計と情報処理	1	前	1				
			保健医療統計学	1	後	1				
			実践保健医療統計学	2	前	1				
			疫学	2	後	2				
			健康環境論	1	前		1	} 2単位選択		
			医療・看護経済学	2	後		1			
			国際看護論	2	後		1			
授業科目の概要	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数		備考		
						必修	選択			
	専門教育科目	看護の基盤	看護学概論	1	前	2				
			看護理論	1	後	1				
			看護過程	2	前	1				
			看護と安全	2	前	1				
			対象の理解（成人看護学）	1	後	1				
			対象の理解Ⅱ（老年看護学）	2	前	1				

		対象の理解Ⅲ(母性看護学)	2	前	1			
		対象の理解Ⅳ(精神看護学)	2	後	1			
		対象の理解Ⅴ(小児看護学)	2	後	1			
		地域家族支援論	2	後	2			
		看護と倫理	2	後	1			
		ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1			
	看護実践Ⅰ	ヘルスアセスメント技術	2	前	2			
		基礎看護技術Ⅰ	1	前	2			
		基礎看護技術Ⅱ	1	後	1			
		基礎看護技術Ⅲ	2	後	1			
		成人看護学Ⅰ	2	後	2			
		成人看護学Ⅱ	3	前	2			
		成人看護学演習	3	前	1			
		老年看護学	2	後	2			
		老年看護学演習	3	前	1			
		母性看護学Ⅰ	2	後	1			
		母性看護学Ⅱ	3	前	1			
		母性看護学演習	3	前	1			
		精神看護学	3	前	2			
		精神看護学演習	3	前	1			
		小児看護学	3	前	2			
		小児看護学演習	3	前	1			
		公衆衛生看護学概論	2	前	2			
		地区活動論	2	後	1			
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	3	前	2			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前	2			
	公衆衛生看護管理論	4	前		1	} ※保健師国家試験受験 資格要件		
	公衆衛生看護学演習	4	前		1			
	国際保健・看護演習	4	前		1	} 2単位選択		
	看護実践Ⅱ	在宅看護学	3	前	2			
		在宅看護学演習	3	前	1			
		ターミナルケア	4	前	1			
	看護実践Ⅱ	ケア場面実習	1	前	1			
		看護アセスメント実習	2	後	2			
		老年看護学実習Ⅰ	2	後	1			

			老年看護学実習Ⅱ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅰ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅱ	3	後	2			
			成人看護学実習Ⅲ	4	前	2			
			母性看護学実習	3	後	2			
			小児看護学実習	3	後	2			
			精神看護学実習	3	後	2			
			公衆衛生基礎実習	1	前	1			
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	後	2			
			公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	※保健師国家試験受験 資格要件 2単位選択	
			国際保健・看護実習	4	後		2		
			在宅看護学実習	3	後	2			
			発展看護実習Ⅰ	4	通	1			
			発展看護実習Ⅱ	4	通	1			
			授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		備考	
						必修	選択		
授業科目の概要	専門教育科目	看護の役割と発展	災害看護	2	前	1			必修 77単位  選択 3単位
			看護研究	3	前	1			
			卒業研究	4	通	2			
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1	1単位選択	
			災害看護	4	通		1		
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1		
			総合看護	4	通		1	2単位選択	
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1		
			チーム医療	4	通		1		
			看護管理論	4	後		1		
			看護教育論	4	後		1		
			看護政策論	4	後		1		
			最新看護の動向	4	通		1		

※ 卒業に必要な最低修得単位数は133単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された4単位（①「公衆衛生看護管理論（1単位）」、「公衆衛生看護学演習（1単位）」及び「公衆衛生看護学実習Ⅱ（2単位）」、又は②公衆衛生看護管理論（1単位）」、「国際保健・看護演習（1単位）」及び「国際保健・看護実習（2単位）」のいずれかの組み合わせ）を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した3週間あるいは4週間のコースを修了した学生に2単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。
  - (ア) 「海外英語研修単位認定申請書」
  - (イ) 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
  - (ウ) 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。  
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧  
(平成 30 年度以降の入学生用)

授業科目の名称		配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位	
				必修	選択			
(全学共通科目)	基礎分野 I	1・2・3・4	前・後		各 2 5 1		10 単位 以上 選択	
	第1部門							
	第2部門							
	第3部門							
	総合科目							
基礎分野 II	運動	身体運動科学	1	通	2			
	研修	海外英語研修	1・2・3・4		2			
	教育	日本国憲法	1	後	2			
		教育学	2	後	2			
基礎分野 II	主体性と判断力の育成	基礎セミナー I	1	前	1			
		基礎セミナー II	2	前	1			
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュ I	1	前	1			
		フレッシュマンイングリッシュ II	1	前	1			
		フレッシュマンイングリッシュ III	1	後	1			
		フレッシュマンイングリッシュ IV	1	後	1			
		英語コミュニケーション I	2	前	1			
		英語コミュニケーション II	2	後	1			
専門基礎分野	人間と生活の理解	人間関係論	1	前	2		2単位選択	
		臨床心理学	2	後	1			
		健康行動論	2	前	1		2単位選択	
		運動と健康の生理学	1	前	1			
		健康環境論	1	前	1			
		医療・看護経済論	2	前	1			
		国際看護論	2	後	1			
		機能と人体の構造	機能形態学 I	1	前	2		必修 28 単位 + 選択 4 単位
	機能形態学 II		1	後	2			
	生物化学		1	前	1			
	基礎健康科学演習		1	後	2			
	疾病の成り立ちと回復の促進		症候論	1	後	2		
			微生物学	1	後	1		
		臨床薬理学	2	前	2			
臨床栄養学		2	前	2				
病態学		2	前	2				
社会保健支援と制度	公衆衛生学	1	前	2				
	社会福祉論	1	後	1				
	保健福祉行政論	2	前	2				
	保健医療統計学	1	前	2				
	情報処理演習	1	後	1				
	疫学	2	後	2				
基礎分野 I + 基礎分野 II + 専門基礎分野 単位数計							49(選択4含む)	

授業の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
					必修	選択		
授業の概要	専門分野 I	看護学原論	1	前	2			必修 51 単位
		基礎看護技術論 I	1	前	2			
		基礎看護技術論 II	1	後	2			
		基礎看護技術演習 I	1	後	1			
		看護コミュニケーション演習	1	前	1			
		基礎看護技術演習 II	1	後	1			
		看護アセスメント演習	2	前	1			
		看護と倫理	2	後	1			
		看護コミュニケーション実習	1	前	1			
		看護アセスメント実習	2	前	2			
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2			
		慢性看護援助論演習	2	後	1			
		急性期看護学概論	3	前	2			
		急性期看護援助論演習	3	前	1			
		慢性看護学実習	3	後	2			
		急性期看護学実習	3	後	2			
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2			
		老年看護学概論	2	後	2			
		老年看護援助論	2	後	1			
		老年看護学演習	3	前	1			
		老年看護学実習 I	3	後	2			
		老年看護学実習 II	3	後	1			
		母性看護学概論	2	前	1			
		母性看護援助論 I	2	後	1			
		母性看護援助論 II	3	前	1			
		母性看護学演習	3	前	1			
		母性看護学実習	3	後	2			
		小児看護学概論	2	後	2			
		小児看護援助論	3	前	1			
		小児看護学演習	3	前	1			
		小児看護学実習	3	後	2			
		精神看護学概論	2	後	2			
		精神看護援助論	3	前	1			
		精神看護学演習	3	前	1			
精神看護学実習	3	後	2					

	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
				必修	選択		
授業科目の概要	専門分野 統合分野	地域包括ケア	1	後	1		必修 25 単位  ※保健師国家試験受験資格要件
		災害看護セミナー	2	後	1		
		地域家族支援論	2	後	2		
		在宅看護学概論	3	前	2		
		在宅看護学演習	3	前	1		
		在宅看護学実習	3	後	2		
		看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1	
		看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1	
		公衆衛生看護学概論	1	後	2		
		ヘルスプロモーション	2	前	2		
		国際保健・災害看護論	2	前	2		
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		
		公衆衛生看護基礎実習	2	後	1		
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	
		公衆衛生看護管理論	3	前		2	
		公衆衛生看護方法論	3	前		2	
		公衆衛生看護学演習	3	後		1	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	前		2	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	
		看護研究	3	前	1		
		卒業研究A	3	通		2	
		卒業研究B	4	通	2		
		国際保健・看護演習	4	前		1	
		国際保健・看護実習	4	通		2	
		発展看護実習	4	通	2		
		看護管理論	4	後	1		
看護政策論	4	後	1				
看護キャリアデザイン論	4	後		2			
専門分野 単位数計						76	
卒業要件(最低単位数)							125

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位——公衆衛生看護活動論Ⅱ(2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(2 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(2 単位)を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

#### 【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。
  - ア 「海外英語研修単位認定申請書」



- イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
- ウ 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー
- ※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。  
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

## 2. 研究科

### 1) 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の養成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

### 2) 博士前期課程

#### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

#### 教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。
3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

#### 入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

### 3) 博士後期課程

#### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

#### 教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や保健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。
3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

#### 入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。

る。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究および経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

## 4) 研究科カリキュラム

## 2021年度 教育課程

## 博士前期課程

	授業科目	単位数		1年次		2年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	研究法Ⅰ	2		30			
		研究法Ⅱ	2		30			
	選択	看護理論		2	30		30	
		看護倫理特論		2	30		30	
		看護教育学特論		2	30		30	
		看護管理学特論		2	30		30	
		家族看護特論		2		30		30
		基礎科学特論		2		30		30
		母子相互作用支援論		2		30		30
		国際保健医療特論		2	30		30	
英語科学論文クリティーク		2	30		30			
専門科目	選択	基盤看護学特論Ⅰ		2	30			
		基盤看護学特論Ⅱ		2	30			
		基盤看護学特論Ⅲ		2	30			
		基盤看護学特論Ⅳ		2	30			
	択	基盤看護学応用演習Ⅰ		4		60		
		基盤看護学応用演習Ⅱ		4		60		
		基盤看護学応用演習Ⅲ		4		60		
		基盤看護学応用演習Ⅳ		4		60		
	必修	基盤看護学特別研究		6			45	45
		実践看護学特論Ⅰ		2	30			
		実践看護学特論Ⅱ		2	30			
		実践看護学特論Ⅲ		2	30			
		実践看護学特論Ⅳ		2	30			
		実践看護学特論Ⅴ		2	30			
		実践看護学応用演習Ⅰ		4		60		
		実践看護学応用演習Ⅱ		4		60		
		実践看護学応用演習Ⅲ		4		60		
実践看護学応用演習Ⅳ		4		60				

	実践看護学応用演習Ⅴ		4		60		
	実践看護学特別研究		6			45	45
	広域看護学特論Ⅰ		2	30			
	広域看護学特論Ⅱ		2	30			
	広域看護学特論Ⅲ		2	30			
	広域看護学応用演習Ⅰ		4		60		
	広域看護学応用演習Ⅱ		4		60		
	広域看護学応用演習Ⅲ		4		60		
	広域看護学特別研究		6			45	45
助産学課程選択必修	助産学特論		2	30			
	助産学応用演習		4		30	30	
	妊娠期助産診断技術学		2	30			
	統合ヘルスケア論		2	30			
	妊娠期助産診断技術学演習		3	45			
	助産学基礎演習		3	45			
	地域助産学実習		2	30	30		
	助産学課題研究		4			30	30
助産師養成選択科目	助産学概論		2	15	15		
	助産管理論		2		30		
	母子保健包括支援論		1	5	10		
	周産期学		2	30			
	リプロダクティブ・ヘルス演習		2		60		
	周産期助産学演習		2	30	30		
	助産診断学演習		3	90			
	助産技術学演習		3	90			
	助産学実習		9		405		
	助産学統合実習		2			90	

博士後期課程

		授業科目	単位数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期
科目 共通	必修	看護学研究特講	2		30					
	選択	生体環境科学特講		2	30		30			
		保健福祉政策特講		2	30		30			
専門 科目	選択	看護技術開発特講		2	30					
		感染看護学特講		2	30					
		小児看護実践開発特講		2	30					
		助産学特講		2	30					
		がん看護理論特講		2	30					
		周手術期看護学特講		2	30					
		精神保健看護学特講		2	30					
地域・在宅看護システム特講		2	30							
演習・ 研究科目	必修	看護学特別演習	2		15	15				
		看護学特別研究Ⅰ	2		15	15				
		看護学特別研究Ⅱ	2				15	15		
		看護学特別研究Ⅲ	4						30	30

### 3. 臨地実習表

#### 1) 看護コミュニケーション実習

2021年度 看護コミュニケーション実習 学生配置表

臨地実習1日 学生122名									
G	62名	Aクラス		6/1 (火)	6/8 (火)	6/15 (火)	6/22 (火)	6/29 (火)	7/6 (火)
1	3			学内通常授業	静岡市立静岡病院 東10階病棟	学内通常授業	学内実習 3・4限 255講義室	学内通常授業	学内実習 3・4限 255講義室
2	2				静岡市立静岡病院 東7階病棟				
3	2				静岡市立静岡病院 東8階病棟				
4	2				静岡市立静岡病院 西9階病棟				
5	2				静岡市立静岡病院 西8階病棟				
6	3				学内実習 3・4限 255講義室		静岡市立静岡病院 東10階病棟		
7	2						静岡市立静岡病院 東7階病棟		
8	2						静岡市立静岡病院 東8階病棟		
9	2						静岡市立静岡病院 西9階病棟		
10	2						静岡市立静岡病院 西8階病棟		
11	2				学内実習 3・4限 255講義室		静岡市立静岡病院 東10階病棟		
12	2						静岡市立静岡病院 東7階病棟		
13	2						静岡市立静岡病院 東8階病棟		
14	2						静岡市立静岡病院 西9階病棟		
15	2						静岡市立静岡病院 西8階病棟		
16	3			学内実習 3・4限 255講義室	静岡赤十字病院 3-3病棟				
17	3				静岡赤十字病院 3-4病棟				
18	2				静岡赤十字病院 3-7病棟				
19	2				静岡赤十字病院 3-9病棟				
20	3				学内実習 3・4限 255講義室	静岡赤十字病院 3-3病棟			
21	3			静岡赤十字病院 3-4病棟					
22	2			静岡赤十字病院 3-7病棟					
23	2			静岡赤十字病院 3-9病棟					
24	3			学内実習 3・4限 255講義室		静岡赤十字病院 3-3病棟			
25	3				静岡赤十字病院 3-4病棟				
26	2				静岡赤十字病院 3-7病棟				
27	2				静岡赤十字病院 3-9病棟				
28	60名	Bクラス			6/1 (火)	6/8 (火)	6/15 (火)	6/22 (火)	6/29 (火)
28	2			学内通常授業	静岡市立静岡病院 東10階病棟	学内通常授業	学内実習 3・4限 255講義室	学内通常授業	学内実習 3・4限 255講義室
29	2				静岡市立静岡病院 東7階病棟				
30	2				静岡市立静岡病院 東8階病棟				
31	2				静岡市立静岡病院 西9階病棟				
32	2				静岡市立静岡病院 西8階病棟				
33	2				学内実習 3・4限 255講義室		静岡市立静岡病院 東10階病棟		
34	2						静岡市立静岡病院 東7階病棟		
35	2						静岡市立静岡病院 東8階病棟		
36	2						静岡市立静岡病院 西9階病棟		
37	2						静岡市立静岡病院 西8階病棟		
38	2				学内実習 3・4限 255講義室		静岡市立静岡病院 東10階病棟		
39	2						静岡市立静岡病院 東7階病棟		
40	2						静岡市立静岡病院 東8階病棟		
41	2						静岡市立静岡病院 西9階病棟		
42	2						静岡市立静岡病院 西8階病棟		
43	3			学内実習 3・4限 255講義室	静岡赤十字病院 3-3病棟				
44	3				静岡赤十字病院 3-4病棟				
45	2				静岡赤十字病院 3-7病棟				
46	2				静岡赤十字病院 3-9病棟				
47	3				学内実習 3・4限 255講義室	静岡赤十字病院 3-3病棟			
48	3			静岡赤十字病院 3-4病棟					
49	2			静岡赤十字病院 3-7病棟					
50	2			静岡赤十字病院 3-9病棟					
51	3			学内実習 3・4限 255講義室		静岡赤十字病院 3-3病棟			
52	3				静岡赤十字病院 3-4病棟				
53	2				静岡赤十字病院 3-7病棟				
54	2				静岡赤十字病院 3-9病棟				



## 2) 看護アセスメント実習

2021年度 看護アセスメント実習 臨地実習学生配置表

グループ	人数	静岡県立総合病院																	
		月		5月				6月				8月		9月					
		日		20	27	3	10	17	24	30	31	1	2	3	6	7	8	9	10
		学籍番号	学生氏名	木	木	木	木	木	木	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
1	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
2	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
3	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
4	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
5	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院	臨地実習	臨地実習						
6	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院	学内振替	学内振替						
7	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
8	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
9	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
10	3			県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院								
11	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
12	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
13	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
14	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
15	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院	臨地実習	臨地実習				
16	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院	学内振替	学内振替				
17	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
18	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
19	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
20	3					県立総合病院						県立総合病院	県立総合病院						
21	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
22	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
23	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
24	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
25	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院	臨地実習	臨地実習			
26	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院	学内振替	学内振替			
27	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
28	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
29	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
30	3					県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院					
31	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
32	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
33	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
34	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
35	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院	臨地実習	臨地実習	
36	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院	学内振替	学内振替	
37	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
38	2							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
39	3							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			
40	2							県立総合病院							県立総合病院	県立総合病院			



4) 臨床シミュレーション EBN 実習

施設施設	日程	G	チーム	人数	教員
病棟実習・看護過程の展開 & EBNプロジェクト	6月7日～6月11日	1	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		2	A	5名	山田紋子
			B	3名	
		3	A	3名	前野真由美
			B	3名	
		4	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		5	A	3名	松裏豊
			B	3名	
	6月14日～6月18日	6	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		7	A	3名	山田紋子
			B	3名	
		8	A	3名	前野真由美
			B	3名	
		9	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		10	A	3名	松裏豊
			B	3名	
6月28日～7月2日	11	A	3名	林みよ子	
		B	3名		
	12	A	3名	山田紋子	
		B	3名		
	13	A	3名	前野真由美	
		B	3名		
	14	A	3名	鈴木郁美	
		B	3名		
	15	A	3名	松裏豊	
		B	3名		
7月5日～7月9日	16	A	3名	林みよ子	
		B	3名		
	17	A	3名	山田紋子	
		B	3名		
	18	A	3名	前野真由美	
		B	3名		
	19	A	3名	鈴木郁美	
		B	3名		
	20	A	3名	松裏豊	
		B	3名		

病棟施設	日程	G	チーム	人数	教員
シミュレーション 実習	6月7日～6月11日	6	A	3名	田中範佳 中岡正昭
			B	3名	
		7	A	3名	
			B	3名	
		8	A	3名	
			B	3名	
		9	A	3名	
			B	3名	
		10	A	3名	
			B	3名	
	6月14日～6月18日	1	A	3名	
			B	3名	
		2	A	5名	
		3	A	3名	
			B	3名	
		4	A	3名	
	B		3名		
	6月28日～7月2日	16	A	3名	
			B	3名	
		17	A	3名	
			B	3名	
		18	A	3名	
			B	3名	
	19	A	3名		
B		3名			
7月5日～7月9日	11	A	2名		
		B	3名		
	12	A	3名		
		B	3名		
	13	A	3名		
		B	3名		
14	A	3名			
	B	3名			
15	A	3名			
	B	3名			

実習責任者：山田 紋子

## 5) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政・学校・産業)

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政)

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市南部保健福祉センター	5/24～6/4	5名	鈴木千智
富士市保健センター	5/24～6/4	6名	安藤継子
静岡市東部保健福祉センター	6/7～6/18	5名	佐藤瑠美
牧之原市保健センター	6/7～6/18	5名	栗田真由美
焼津市保健センター	8/23～9/3	6名	栗田真由美
島田市保健センター	9/13～9/24	6名	鈴木千智
静岡市蒲原保健福祉センター	9/13～9/24	6名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	9/13～9/24	5名	安藤継子
吉田町保健センター	9/13～9/24	4名	杉山眞澄
静岡市清水保健福祉センター	9/27～10/8	4名	栗田真由美
静岡市城東保健福祉センター	10/11～10/22	6名	佐藤瑠美、伊藤純子

学生数：58名

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業)

施設	実習期間	学生数	担当教員
ジャトロ株式会社	5/24～6/4	6名	畑中純子
富士第1地区健康サポート室	9/13～9/24	6名	畑中純子
三菱電機(株)静岡製作所	8/30～9/10	6名	畑中純子
JR 東海健康管理センター 静岡健康管理室	9/13～9/24	6名	安藤継子 伊藤純子

学生数：24名

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校)

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市立横内小学校	5/24～5/28	4名	杉山眞澄
静岡市立安西小学校	6/21～6/25	4名	杉山眞澄
静岡市立大里中学校	7/5～7/9	4名	畑中純子
静岡市立宮竹小学校	9/13～9/17	4名	栗田真由美
静岡県立清水特別支援学校	5/31～6/4	4名	杉山眞澄
静岡県立中央特別支援学校	9/21	12名	畑中純子他、他2名
静岡県立吉原林間学園	7/13	16名	畑中純子他、他2名

学生数：16名

総責任者：畑中純子

6) 国際保健・看護実習

本年度実施なし。

7) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習

科目	学年	実習期間	実習施設	学 生 数	担当教員
妊娠期助産診断 技術学演習 (妊婦健康診査 実習)	1	6/3～7/15 (1回/週 7週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	3名	藤田景子 高木静
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学基礎演習 (助産準備実習)	1	9/27～10/8 (2週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	3名	藤田景子 高木静
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学実習	1	10/11～11/12 (5週間) 1/11～2/4 (4週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	3名	藤田景子 高木静
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
周産期助産学演習 (NICU実習)	1	2/18、21、22、24 (4日間)	静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
		2/14～18 (4日間)	学内実習	5名	藤田景子 福島恭子
地域助産学実習	1	第1期 9/6～9/10 (5日間)	くさの助産院	2名	藤田景子
			渡辺助産院	3名	太田尚子 高木静
			エス・アール・ハウス	2名	福島恭子
地域助産学実習	1	第2期 11/15～3/31の うち4日間	各学生の実習目的に 沿った施設・団体等	7名	太田尚子 藤田景子 福島恭子 高木静 金田千依

助産学統合実習	2	6月～9月 (うち12日、15日)	渡辺助産院	2名	太田尚子 高木静
		6月～9月 (うち14日)	エス・アール・ハウス	1名	福島恭子
		6月～9月 (うち11日、15日、 15日)	くさの助産院	3名	藤田景子

実習総責任者 太田尚子

## 4. 学生の研究

### 1) 学部の指導体制と研究テーマ

教員の学生担当数は、専門基礎・保健医療領域、環境看護学、基礎看護学領域、成人看護学領域、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-4-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「令和3年度(2021)卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布を予定している。

表 4-4-1 令和3年度(2021)看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1715002	渥美 友貴	若者の自殺対策における相談体制の実態調査と SNS 相談に関する文献検討	篁宗一
1715010	石上 茅	看護大学生のコミュニケーション・スキルの 学年別比較	管原清子
1715033	川本 真帆	子どもの「気管切開」に関する親の意思決定について；文献レビュー	鈴木和香子
1715038	工藤 愛	震災時の中学生に対する心のケアに関する文献検討	根岸まゆみ
1715039	熊谷 吏紗	休息時にかかる音楽による運動負荷の回復効果	管原清子
1715050	佐藤 アレクス	微生物の感染経路と消毒の有用性に関する文献調査研究	三崎健太郎
1715108	森 由貴奈	高齢者の看取りに関してアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の実践に影響を及ぼす因子の文献検討	洞口典子
1715109	山内 颯太	暴力を受けた精神科看護師が仕事を継続できている要因	近藤美保
1715113	山田 桐	マウスの肺の炎症下における9.5nmカーボンブラックナノ粒子の影響-粒子径による効果の相違について-	井上健一郎



1815001	相磯 愛	音楽療法の不安・ストレス軽減効果について	堀 芽久美
1815002	赤堀 奈津希	ICU で終末期を迎える患者の家族への看護に関する文献検討	林みよ子
1815003	秋田 夕佳	日本人における加熱式たばこの使用理由に関する文献検討	堀芽久美
1815004	浅原 紗緒利	運動習慣の改善における睡眠の質向上に関するメタアナリシス	松裏豊
1815005	芦澤 美憂	病気別による小児患者の病名病状説明に関する子どもの希望の現状；文献レビュー	山下早苗
1815006	新井 奈菜美	入院体験に対する子どもの思いに関する文献検討	丸山始美
1815007	荒木 竜郎	国内におけるアレルギー性鼻炎の免疫療法の効果と副反応に関する過去5年間の文献検討	濱井妙子
1815008	有光 美稀	睡眠促進に対する非薬理学的介入の有効性に関するメタアナリシス	松裏豊
1815009	飯田 理加	妊婦の母乳育児を困難にする要因とスムーズな母乳育児開始に向けた妊娠期の母乳育児支援に関する文献検討	太田尚子
1815010	池ヶ谷 瑠奈	産後うつ病予防のための行政及び周産期施設の取り組みの実際	中川有加
1815011	寺島 梨々菜	嚥下障害のある高齢の在宅療養者を対象とした訪問看護支援についての文献検討	膽畑敦子
1815013	伊藤 美咲	術後の起立性低血圧発症要因と発症が及ぼす影響からみた安全な離床	林みよ子
1815014	稲岡 菜月	女子大学生の子宮頸がんワクチン接種行動の関連要因－看護系学生と非看護系学生を対象として－	濱井妙子
1815015	稲葉 理伊	急性期脳血管疾患患者の家族の生活の再構築に向かう体験	林みよ子
1815016	井上 智香子	人間ドックデータにおける eGFR <sub>cre</sub> と eGFR <sub>cys</sub> の乖離に関する検討	荒井孝子
1815018	岩井 結利恵	パーキンソン病在宅高齢者とその家族に対する療養生活支援に関する文献検討	富安眞理

1815019	岩崎 佑音	気分障害患者の服薬アドヒアランスを高める効果的な看護支援についての文献検討	遠藤りら
1815020	岩山 達成	外国籍小児と家族への支援の実際ー看護師へのインタビュー調査を通してー	濱井妙子
1815021	植松 香帆	ダウン症児を持つ母親の障害の受容過程と看護者に期待するケアニーズ	鈴木和香子
1815023	梅原 陽菜	終末期高齢者の希望に沿ったエンド・オブ・ライフケアの検討ー看取り経験をした家族の思いや経験からの考察ー	成瀬早苗
1815024	海野 ひかり	女子大学生の子宮頸がん検診を阻害する要因について～HPV ワクチン公費助成世代を対象とした文献検討～	高木静
1815025	海野 莉歩	産業看護職によるメンタルヘルス教育の実践に関する文献検討	畑中純子
1815026	大野 由華	入院患者における洗髪の実態と看護師の認識・患者の思い	山口みのり
1815027	大場 菜奈未	国内の看護文献にみる外来化学療法を受けているがん患者の副作用に対するセルフケア	山田紋子
1815028	岡島 和花	助産所出産での女性に対する出産体験を高める助産ケア	永谷実穂
1815029	岡本 加奈子	入院中の患児が同室児から受ける影響	鈴木和香子
1815030	小倉 有紗	在宅認知症高齢者を介護する家族の心理的ストレスの内容とその要因	富安眞理
1815031	長田 結希	周手術期にある患者に対する音楽を取り入れた看護師による精神的ケアの有効性	長澤利枝
1815032	小澤 歩華	医療選択を迫られる家族の意思決定を支える看護実践に関する文献レビュー	中岡正昭
1815034	帯金 愛麗	幼児が検査や処置を前向きに取り組むことができるように看護師が行っている関わりについての文献検討	池田麻左子
1815035	加藤 舞花	国内文献にみる生命を脅かす病に罹患した患者のスピリチュアルペイン	山田紋子

1815036	金崎 有紗	糖尿病患者の自己管理を促進・阻害する 思いに関する文献研究	前野真由美
1815037	神谷 滯	就労女性が母乳育児を継続する上で困難 となる要因と提供されている支援の実態	中川有加
1815038	北出 天音	病棟における終末期の患者に対する効果 的な精神的ケアについての文献検討	長澤利枝
1815039	栗山 雲花	脳血管疾患による身体機能障害のある高 齢者の障害受容の過程とそれに応じた看 護の検討	飯塚真樹
1815040	解良 祐希	災害時に看護師が行う潰瘍性大腸炎患者 への支援に関する文献検討	根岸まゆみ
1815041	越川 萌恵	障害のある子どもを出産した母親の障害 受容過程と看護師の役割に関する文献検 討	大和田裕美
1815042	小林 朱	望まない妊娠を経験した母親に対して保 健師による児童虐待防止のために必要な 支援に関する文献検討	安藤継子
1815043	小林 亜美	乳幼児期前半の子どもが外来で採血を受 ける際の外来看護師の判断に関する文献 検討	山下早苗
1815044	小林 美鈴	輸液を受ける患者が訴えた症状の実態に 関する研究	倉本直樹
1815045	小宮山 春菜	出産体験の満足度を高めるために望まし い母親の状態と、そのための看護ケア	福島恭子
1815046	坂本 明海	若い世代の保健行動に影響する関連要因 についての文献検討 ー高齢者の保健行 動と比較した特徴ー	杉山眞澄
1815047	佐藤 美咲	慢性心不全患者に対する遠隔看護介入が 及ぼす影響に関する文献研究	前野真由美
1815048	佐藤 萌々	血液透析患者のセルフケアへの家族の関 わり	操華子
1815049	佐野 愛	小児がん患児への病名病状説明に対する 患児・親・医療者の意向に関する文献検 討	山下早苗
1815050	澤井 美花	集中治療室における早期離床がせん妄予 防に及ぼす影響についての文献検討	中岡正昭

1815053	末吉 楓	高齢初産婦の産後における看護介入に関する文献検討	永谷実穂
1815054	杉浦 直美	多様性の理解に向けた経済連携協定 (Economic Partnership Agreements) に関する文献検討	倉本直樹
1815055	杉山 音瑠	産後うつ病の要因に関する文献検討	福島恭子
1815056	杉山 向日葵	緊急帝王切開分娩により出産した女性の心理に関する文献検討	大和田裕美
1815057	杉山 理子	地域で暮らす高齢者の閉じこもりと健康の 社会的決定要因の関連	栗田真由美
1815058	鈴木 愛乃	食事中に含まれる栄養素が影響するうつ 症状及び精神症状への関連についての検 討	篁宗一
1815060	鈴木 亜由子	在宅で生活する後期高齢者の転倒要因に 関する文献検討	榊みのり 加納江理
1815061	鈴木 花菜	マイクロプラスチックの存在実態と生物 への物理的および毒性影響に関する文献 調査研究	三崎健太郎
1815062	鈴木 希望	行動変容ステージ別における特定保健指 導対象者と特定保健指導を実施する保健 師の思考プロセス	畑中純子
1815063	杉本 春香	ローリスク妊婦の胎児への愛着形成に影 響する要因に関する文献検討	藤田景子
1815064	鈴木 風香	アトピー性皮膚炎を有する成人への心理 的介入	操華子
1815065	鈴木 萌々子	筋萎縮性側索硬化症療養者の人工呼吸器 装着の有無における家族の心理に関する 文献研究	前野真由美
1815066	鈴木 結	虐待ハイリスクの母親に対する保健師に よる児童虐待予防に向けた支援について の文献検討	安藤継子
1815067	鈴木 悠里	結束型ソーシャルキャピタルが地域住民 の健康および保健行動に与える影響	佐藤瑠美

1815068	芹澤 杏奈	乳がん患者の自尊心およびボディイメージに対する介入の有効性：メタ分析	田中範佳
1815069	高田 日向子	災害支援活動を行った看護職のメンタルに影響を及ぼす要因とその対策に関する文献検討	杉山眞澄
1815070	高橋 美結	カンボジアの結核対策に関する文献検討：日本の経験を踏まえた提案	根岸まゆみ
1815071	高林 百萌	大気汚染物質による呼吸器疾患の悪化	井上健一郎 ヘムストック ウェンディ
1815072	田中 凧	国内看護系文献にみる終末期がん患者を看取る家族が受けている看護師の支援	山田紋子
1815073	田端 雪音	国内看護文献にみる緩和ケアに移行した終末期がん患者の家族に対する精神的ケアと効果	山田紋子
1815074	田村 美咲	高齢患者とその家族の退院支援に関する文献レビュー -病院から在宅への移行における患者・家族の困難感を軽減する為の看護支援の検討-	成瀬早苗
1815075	辻川 慎乃	男性の育児を妨げる要因に関する文献検討 -ジェンダー平等に向けて-	佐藤瑠美
1815076	手島 れのん	看護学部生のコミュニケーション・スキルと表情認知能力の関連	管原清子
1815077	常盤 紗弓	喫煙者が禁煙を実施・継続するために効果的なアプローチに関する文献検討	鈴木千智
1815078	富澤 明音	高齢療養者の看取りにおいて家族の満足度に影響を与える要因の検討	飯塚真樹
1815079	外村 茜	統合失調症を持つ患者の家族に対するよりよいケアに関する文献検討	長澤利枝
1815080	中川 真里	フラクトオリゴ糖によるアレルギー疾患への治療効果	井上健一郎
1815081	中澤 亜衣	人間ドックデータにおける eGFR の経年変化に影響を与える因子の検討	荒井孝子
1815082	中山 侑香	社会経済的格差が子どもの健康に与える影響に関する文献レビュー	堀芽久美

1815083	野呂 乙音	COVID-19 が大学生に及ぼした心理的影響に関する文献検討	鈴木千智
1815084	萩原 実理	在宅における認知症高齢者を介護する家族の介護負担とその支援内容の関連	栗田真由美
1815085	服部 佳織	高次脳機能障害を有する脳血管疾患患者の転倒予防に関する文献検討	鈴木郁美
1815086	浜田 瀬莉奈	筋萎縮性側索硬化症療養者を対象とした看護師が提供する緩和ケアに関する文献検討	富安眞理
1815087	林 亜実	片麻痺を有する脳卒中患者の語りに焦点を当てた自尊感情との関連要素に関する文献検討	鈴木郁美
1815088	原 歩美	術後疼痛に対する自己調節鎮痛法と自己調節静脈内・硬膜外鎮痛法による鎮痛の有効性の検討：メタ分析	田中範佳
1815089	原 優花	整容ケアの方法と効果に関する文献検討	永谷幸子
1815092	福地 紫苑	禁煙成功の要因についての文献レビュー	鈴木千智
1815093	藤田 理子	父親役割獲得過程と関連要因についての文献検討	高木静
1815094	藤原 ほのか	新型コロナウイルス感染症に対する意識と行動変容に関する文献検討－外出・対人接触回避行動に焦点を当てて－	佐藤瑠美
1815095	細川 諄	足浴前の足背皮温と快適な湯温の関連	加藤京里
1815096	前田 ほなみ	分娩時に妻が夫に望んでいること	藤田景子
1815097	増田 果歩	Visual Analogue Scale を用いた術前の不安レベルと手術室入室に伴う循環動態変動のカットオフ値に関する検討	田中範佳
1815098	増田 梨那	妊娠期における産後うつ病を予防するための看護職による効果的な支援に関する文献検討	太田尚子
1815099	松井 智絵理	COVID-19 の流行による医療従事者のメンタルヘルスについての文献検討	遠藤りら
1815100	松永 眞依	患者の死に直面した看護師の心理過程	山口みのり

1815101	松村 莉波	特定保健指導における生活習慣病予防のための保健師の支援技術についての文献検討	杉山眞澄
1815102	三浦 菜々子	術前不安に対する保温の有効性の検討：メタ分析	田中範佳
1815103	水野 優美	新型コロナウイルス感染症拡大後の看護学生の手指衛生行動の実態調査	加藤京里
1815104	宮川 幸子	低強度運動の認知機能の維持改善効果に関する文献検討	永谷幸子
1815105	宮島 麻友	意思表示が困難な終末期高齢者の家族の代理意思決定に関する文献レビュー — 家族の苦悩を軽減させるための看護師による効果的な代理意思決定支援の検討 —	成瀬早苗
1815106	宮脇 菜緒	看護師の手荒れの現状と対策	操華子
1815108	望月 彩月	初回受診時の人間ドックデータにおいて eGFR を異常にさせる因子の検討	荒井孝子
1815109	森下 穂乃香	患児看取り後の看護師の感情とその影響因子に関する文献検討	池田麻左子
1815110	森下 桃花	NICU に児が入院した母親の心理と効果的な看護支援についての文献検討	永谷実穂
1815111	八木 美咲	新人看護職者がリアリティ・ショックを感じる要因と必要な支援の検討 - 新人看護職者、中堅看護職者の視点から -	篁宗一
1815112	八木 美月	DEHP によって悪化したアレルギー性腹膜炎に対するフラクトオリゴ糖の抗アレルギー効果	井上健一郎
1815113	山崎 玲奈	医療系職種とその他職種における夜勤がある者の生活習慣に関する文献検討	畑中純子
1815114	山本 晃大朗	保護者版・子どもの適切なネット利用を促す教育プログラムの開発	篁宗一
1815115	由利 隼輝	術前不安に対する音楽療法の有効性の検討：メタ分析	田中範佳
1815116	吉本 光里	予定帝王切開を受ける女性の心理・行動の変化と必要な看護ケアの検討	福島恭子

1815117	良知 栞里	高齢者世帯における認知症高齢者家族の介護に対する思いについての文献検討	膽畑敦子
1815118	若松 マリア	うつ病が患者家族にもたらした影響に関する文献検討	近藤美保
1815119	和久田 麻維	認知機能が低下した患者に対する転倒予防のためのかかわり	山口みのり
1815120	渡邊 友菜	新型コロナウイルス感染症の流行が地域在住高齢者のフレイルに与えた影響に関する文献検討	永谷幸子
2015121	木村 春香	足浴の水深の違いによる足背皮膚温と心理的指標の比較	加藤京里



## 2) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、11名の大学院生より修士論文が提出され、修士論文審査および最終試験を経て11名全員が修士課程を修了することとなった。

研究科の指導は、指導教員を中心に、他領域の教員の協力を得ながら行われた。研究の実施にあたり、病院施設等より多大なるご支援、ご協力を得た。修士論文発表会は、令和3年3月4日（金）、新型コロナウイルスの感染を考慮しZoomによるオンラインでの開催とした。参加は大学院生、学部生、教員および、研究協力施設の関係者など多数であった。

修了生の氏名、専門分野および論文題目は以下の表のとおりである。

表 4-4-2 令和3年度看護学研究科博士前期課程修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
梶山 千珠子	看護技術学	ケミカルテロリズム・バイオテロリズムの初期対応に求められるスキル: 地下鉄サリン事件の経験を通して	操 華子 藤田 景子
大竹 恵子	小児看護学	中学生の受動喫煙への対処行動に関する実態調査	山下 早苗 鈴木 千智
藤田 登志美	小児看護学	児童相談所に配属されている保健師の保健活動に関する実態調査	山下 早苗 畑中 純子
梁川 明	小児看護学	在宅で定期補充療法に取り組む男性血友病患者の思春期における親子の歩み	山下 早苗 林 みよ子
谷澤 和	助産学	新婚期にある夫婦が結婚生活におけるパートナーシップを形成する上で抱く困難	太田 尚子 山田 紋子
氏原 万実華	助産学	独身男性の生活習慣からプレコンセプションケアを考える	中川 有加 篁 宗一
江俣 綾香	助産学	不妊治療を受けていた息子のパートナーとの関わりの中で義理の親に生じた思い	中川 有加 永谷 幸子
鈴木 紗衣	助産学	ペリネイタル・ロスを経験した母親の行政へのサポート・ニーズ	太田 尚子 成瀬 早苗
長谷川 美波	助産学	妊娠期の初産婦がインターネットを用いて行う妊娠に関する情報取得時の困難と情報への対処方法	太田 尚子 鈴木 千智
吉田 香蓮	助産学	産後ケア事業において初めて母子と出会う助産師が抱えているケア提供時の困難	藤田 景子 太田 尚子

渡辺 結女	助産学	妊娠 22 週以降に胎児がダウン症候群であると診断された父親の体験	藤田 景子 畑中 純子
-------	-----	-----------------------------------	----------------

\*学籍番号順

## V. 学生生活

### 1. 学生定員および在学生数

#### 1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学25名であり、収容定員は計530名である。

表 5-1-1 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年 編入生	4年生	4年 編入生	合計
学部定員	120	120	120	25	120	25	530
在籍者数	120	120	124	1	119	1	485
休学者数	1	1	1	0	0	0	3
退学者数	0	2	2	0	0	0	4

※在籍者数はR3年度当初、休学者はR3年度末、退学者数はR3年度内の数字

## 2) 研究科

看護学研究科の入学定員は16名、収容定員は32名である。R3年度の博士前期課程在籍者数は、表5-1-2および表5-1-3に示すとおり、1年13名、2年13名、博士後期課程在籍者数は、1年4名、2年2名である。

表 5-1-2 博士前期課程 定員および在学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	13	13	26
休学者数	0	1	1
退学者数	0	0	0

表 5-1-3 博士後期課程 定員および在学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	3	3	6
在籍者数	4	2	6
休学者数	0	0	0
退学者数	0	0	0

※在籍者数はR3年度当初、休学者はR3年度末、退学者数はR3年度内の数字

## 2.入学志願者数および入学者数とその背景

### 1)学部

各入学試験志願者数（受験者数）は一般選抜 前期 141(133)→176(165)、一般選抜後期 75(8)→131(31)、社会人選抜 4(4)→2(2)、学校推薦型選抜 99(99)→59(59)、編入学 3(3)→1(0)であった。一般選抜の志願倍率は、前期、後期ともに昨年より上昇し例年並みに落ち着いた。また、編入学試験における合格者の慢性的な定員割れは、保健師課程を有しないコースの設定が大きく寄与していると考えする。

表 5-2-1 令和 3 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	176	165	87	84
一般後期	5	131	31	5	5
推薦	30	59	59	30	30
社会人	若干名	2	2	2	1
編入学	25	1	0	0	0
合計	145	369	257	124	120

※県内出身の入学者は 99 名（編入生を除いて）

表 5-2-2 令和 2 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	141	133	87	85
一般後期	5	75	8	5	5
推薦	30	99	99	30	30
社会人	若干名	4	4	0	0
編入学	25	3	3	1	1
合計	145	322	247	123	121

※県内出身の入学者は 98 名（編入生を除いて）

## 2) 研究科

令和3年度入試の入学志願者数（博士前期）は看護学研究科の一次募集において12名、二次募集において2名であった（延べ14名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が11名で、社会人特別選抜での出願者が3名であった。一次二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は10名であった。研究科全体としては志願者数が減少した。また、なお博士課程の志願者は定員3名のところ出願者4名、合格者3名であった。選抜区分としては一般選抜での出願者が2名で、社会人特別選抜での出願者が2名であった。合格者はいずれも入学手続きを行った。なお今年度はCovid-19感染拡大の影響から一次募集の入試日に英語試験を同日受験可能とする措置を講じ、1名が受験した。

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景(上：博士前期、下：博士後期)

	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
入学志願者	12	8	9	21	16	15	16	14
入学者数	8	8	7	13	10	12	13	10
(うち社会人 特別入学)	(2)	(5)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(3)
	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度					
入学志願者	3	5	4					
入学者数	2	4	3					
(うち社会人 特別入学)	(2)	(3)	(1)					

### 3. 卒業・修了者の進路状況

#### 1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(令和4年3月31日現在)

表 5-3-1 学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

年度	性別	卒業生数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
平成31年度 (令和元年度)	男	11	10	1	0	9	—	1	7	3	—
	女	108	100	—	3	89	11	—	78	22	5
	計	119	110	1	3	98	11	1	85	25	5
令和2年度	男	8	8	—	0	6	2	—	8	0	—
	女	103	93	—	4	83	10	—	76	17	6
	計	111	101	—	4	89	12	—	84	17	6
令和3年度	男	7	7	—	0	5	0	2	6	1	—
	女	103	100	—	5	82	16	2	86	14	8
	計	120	107	—	5	87	16	4	92	15	8

## 2) 研究科

令和3年度の修了生は、11名である。修了後の進路状況は、助産学分野修了生は全員、助産師として就職、社会人修了生は、進学2名、現職（保健師・看護師）の継続各1名である。

表 5-3-2 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成25年度	7	1	0	2	0	4	0
平成26年度	12	1	0	5	3	3	0
平成27年度	11	3	0	7	1	0	0
平成28年度	7	3	1	3	0	0	0
平成29年度	4	1	1	1	0	1	0
平成30年度	13	2	0	8	3	0	0
平成31年度 (令和元年度)	12	3	2	7	0	0	0
令和2年度	8	0	1	5	1	0	1
令和3年度	11	1	1	7	0	0	2



#### 4. 免許・資格などの取得状況

過去3年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表5-3-3に示した。令和3年度の全国合格率は、看護師91.3% (96.5%)、保健師89.3% (93.0%)、助産師99.4% (99.7%)であった。※( )は新卒者。

表5-4-1 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
平成31年度 (令和元年度)	113/114	95/98	6/6
	(99.1)	(95.9)	(100.0)
令和2年度	109/109	90/91	5/5
	(100.0)	(98.9)	(100.0)
令和3年度	116/119	94/97	7/7
	(97.5)	(96.9)	(100.0)

( )内は合格者数/受験者数の百分率

## VI. 国際交流

### 1. 令和3年度国際交流等事業

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスのパンデミックにより渡航制限（海外実習、研修、視察など）が実施された。したがって、海外協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との交換留学も中止となった。下記は、今年度のオンラインによる国際交流活動実績である。

#### 【COIL 授業開催】

今年度は10回のCOIL授業を実施した。うち3回は米国のCOIL提携校との授業であり、本学における今年度の学生参加目標を全て本学部で達成したことになる。本学部は4年連続で本学COILプロジェクトの数値目標に貢献している。

本学部科目である「発展看護実習（選択）」と「卒業研究ゼミ（選択）」の履修生は4年生で、グループプレゼンテーションや対象大学の学生たちとのディスカッションなどアクティブラーニングをメインにした授業を実施した。「国際保健・災害看護論（必修）」「災害看護セミナー（必修）」「国際看護論（選択）」の履修生は2年生、編入3・4年生である。

実施日	科目名	オンライン接続先	学生参加数
2021/05/07	発展看護実習（国際看護）	オレゴン健康科学大学看護学部	3名
2021/05/25	発展看護実習（国際看護）	オレゴン健康科学大学看護学部	3名
2021/07/13	国際保健・災害看護論	ポートランド大学看護学部	115名
2021/07/14	発展看護実習（国際看護）	コンケン大学、ドルノゴビ医科大学、ポートランド大学、上智大学	3名
2021/11/27	国際看護論	コンケン大学看護学部	50名
2021/12/17	災害看護セミナー	オレゴン健康科学大学看護学部	115名
2022/01/12	生命倫理入門	マヒドン大学公衆衛生大学院	49名
2022/01/17	災害看護セミナー	ボストンカレッジ看護学部	115名
2022/02/27	卒業研究ゼミ（老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部	1名
2022/03/08	卒業研究ゼミ （国際看護・老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部	3名

参照：<https://www.us-coil.jp/jyugyou/#e1edf97a>

コロナ禍の影響により、COIL授業は対面式と全面オンライン式、対面とオンラインを併せたハイブリッド式を取った。オンライン式ではZoom機能を活用したグループワー

クやクイズなどのアクティブラーニングを取り入れた。

7月14日に開催した4か国5大学合同のCOIL授業では“Health promotion practices among nursing students”をテーマとし、各国の看護学生が大学生活や日常生活での健康にまつわる事柄を、英語のプレゼンテーションで紹介し英語による活発なディスカッションも行った。2年生の必修科目では、学生は英語での質問やリアクションペーパー記載を行い、外国人のゲスト教員と共有した。

2022年3月8日は、根岸講師がオレゴン健康科学大学看護学部の国際看護の授業にゲスト講師として招聘された。このゲスト授業は本学生3名と老年看護学領域の教員（成瀬教授、飯塚助教、宮澤助教）と基礎看護学領域の倉本助教も参加して、学生・教員による合同プレゼンテーション「Healthcare system in Japan」を実施した。COIL授業に参加した本学生たちは、日本語や英語で積極的に発言・交流し、これまでの授業の成果を発揮することができた。また、もっと英語力を上げたい、国際看護を勉強したい、国際交流の機会が欲しいなどの声が聞かれ、今後も英語や国際看護学を学習する動機づけとなったと思われる。次年度は、さらに学生間・教員間の国際交流の機会を図れるよう努めたい。

#### 【JANPU 国際セミナーでの講演】

これまでの本学部のCOIL授業の実績を認められ、今年度の日本看護系大学協議会（JANPU）の国際セミナーでの講演依頼を受けた。渡邊順子副学長と根岸講師は、2022年2月19日にZoomウェビナーで全国からの参加者約200名のJANPU国際セミナーにて講演した。

## 2. 国際保健・看護実習

本年度実施なし。

## VII.看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

### 1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

#### 1) 専門基礎領域の活動

##### (1) 医学系教員の活動

###### <教育活動>

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「症候論」「病態学」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、表在理学変化から臓器病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「基礎セミナーII」）を行った。COVID-19感染症への対策も講じて、今年度の講義・演習は基本的には対面形式で、また感染状況によっては一部、オンライン形式で実施された。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、血液検査や心電図測定などの生理学・検査法、酸塩基滴定（体液の緩衝能、生体内・環境水のpHの理解）、放射線の種類と防護方法（距離、遮蔽、時間の三原則）などの生化学・環境実験、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指中の微生物の検出などの微生物学に関する実験を対面で、また呼吸機能検査、抗微生物薬の効果判定などの実習項目についてはオンデマンド形式で実施した。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、特に論理的文章の書き方、文章表現やレポート作成方法、スライド発表に関する基礎教育を実施した。本年度はSDGsに関する事象から興味のある題材（テーマ）を各自で決めて、グループワークおよびレポート作成を進めてもらった。また、「基礎セミナーII」では、臨床で得られる情報を看護者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。

###### <地域貢献活動>

堀、濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。ヘムストックは、高校生のための、英語又は科学の発表及び質疑応答のセミナーに参加した。

## (2) 保健学系教員の活動

### <教育活動>

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ちモチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、エボラ出血熱、インフルエンザや COVID-19 の流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義に導入としている。今年度の講義・演習は基本的には対面形式で、また COVID-19 の感染状況によっては一部、ハイブリッド方式（対面とオンラインの組み合わせ）、オンライン方式で実施した。講義終了後のリフレクションや演習問題を提出することによって授業内容の理解を深めてもらう工夫をしている。

### <領域で行っている地域貢献活動>

堀は、加茂地区の 1 市 5 町と共同で実施する静岡多目的コホート事業において、住民に検査を実施し、地域住民の直接的な健康づくりに取り組んでいる。

濱井は、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、公共公益施設の建築等について審査した。また、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネータを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で医療通訳に関する調査を実施し、情報を提供している。

## 2) 環境看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 看護学部

##### ①担当した授業の特徴

環境看護学は、看護学と基礎医学をつなぐ位置づけで配置された部門である。教員は、教授 1 名であるが、専門基礎医学領域の教員と連携して授業運営を行った。

具体的には、機能形態学 I・II、病態学、基礎セミナー、基礎健康科学演習等の科目を担当している。大学に入学した学生が看護を目指す上で習得しなければならない専門基礎医学が看護学にどのように繋がっていくかを示しながら授業を構築している。2020 年度の病態学において、各非常勤講師がどのような内容の講義でどのような部門を学習しているか実態を把握した。その結果、看護学生が実習で数多く担当することがある脳外科の専門知識や心臓血管外科における知識に関する教授内容が不足していることが明らかとなったため、非常勤講師を派遣していただいている静岡県立病院機構静岡県立総合病院との調整を行い、バランスのとれた授業を展開していただいた。学生の授業評価からも満足度が高

い評価が得られた。

## ②実習について

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、発展看護実習Ⅰは、「看護師の臨床判断とアセスメント」、発展看護実習Ⅱは、「地域連携を軸にした看護師の臨床判断とアセスメント」をテーマとして実習した。静岡赤十字病院およびしずおか日赤訪問看護ステーションの協力により、病院と在宅を中心に実習を展開する中で看護師の臨床判断について学習することができた。コロナ下で実習が難しい時期の中、3年次にほとんど実習ができなかった学生たちの実習を補足するように、熱心に、訪問指導等を行っていただいた。組織・地域全体をアセスメントする体験等によって、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となった。

## 大学院看護学研究科

基盤看護学領域では基盤看護学分野を担当したが学生の受け入れはなかった。令和2年度より開設された博士課程後期においては、共通科目の生体環境科学特講の担当であるが、履修者がいなかったため今年度は未開講であった。

## <地域貢献活動>

2015年より看護師特定行為研修の指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として継続して活動している。また、2017年より静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員を継続して担当した。2021年より、公益社団法人有隣厚生会富士病院が実施する特定行為研修指導者講習会の講師として年に2回活動した。

## 3) 基礎看護学領域の活動

### 基礎看護学領域

#### <教育活動>

##### ① 授業運営について

平成30年度カリキュラム4年目となり、1年次は、看護学原論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護コミュニケーション演習、看護コミュニケーション実習、2年次は、看護アセスメント演習、看護アセスメント実習を開講した。対面授業を行ったが、COVID-19感染拡大の影響により、演習科目は学習内容と展開方法の検討・変更を適宜行った。授業資料を作成し、授業前一括配布や事前配布を行い、学生の学習環境を整えた。その他、演習要項の作成、模範技術の収録、e-learningの活用等、学生の学習効果が向上するよう工夫した。

## ② 実習について

基礎看護学領域における実習は、1年次「看護コミュニケーション実習」(1単位)、2年次「看護アセスメント実習」(2単位)、4年次「発展看護実習」(1単位)である。

「看護コミュニケーション実習」は、1年生122名が履修した。従来の目的は、患者の療養生活を知り、看護の実際について理解を深め、患者と看護師および看護師間のコミュニケーションの基本について体験的に学習することである。今年度は実習施設との協議により、1日に臨地実習を行う学生数を30名から10名へ減数したため、週1回の隔週実習3回の内訳を臨地実習1日・学内実習2日に変更した。また、最終日の成果発表会を中止し、学内実施の看護部講義に当てた。1日の臨地実習体験ではあったが、1日を通して看護の実際を見学し、コミュニケーション場面に参加することができた。生活行動援助の技術学習という学内実習への振替による限界はあったが、一定の実習目標を達成することができた。

「看護アセスメント実習」は、2年生118名が履修した。実習は前半1週間、後半1週間であるが、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症対策にて臨地実習の変更を余儀なくされた。全学生が、前半実習で1日臨地実習を行い、残りの前・後半実習は全て学内実習に振り替えた。臨地実習では、看護師とともに行動し、看護援助の見学や実施、患者とのコミュニケーションを体験した。今年度から、臨地実習の補填学習として、教育用電子カルテを導入した。2例の模擬患者を用いて電子カルテ上からの情報収集やアセスメントを行い、ロールプレイで看護援助の実践・評価まで行った。学内実習への振り替えにより、限界はあったが、受け持ち患者を模擬事例に読み替え、立案した看護計画の実践まで行うことで、おおむね最低限の目標達成ができた。

「発展看護実習」では15名が履修した。実習目的は、「看護職の専門性の高い役割・機能について、主体的に実習を行う。病院の看護単位における看護管理を学ぶ。」こととした。事前に看護部と打ち合わせを行い、目的・方法、スタッフの方々と指導体制を確認し、看護管理の視点で学びをより得ることができるよう、協力して実施した。見学実習を中心に、学内でのディスカッション・発表を展開した。

## <地域貢献活動>

### 永谷幸子

日本看護医療学会の事務局員として活動した。また、日本看護医療学会および日本循環器看護学会の査読委員の委嘱を受け活動した。

### 山口みのり

放送大学客員准教授を兼務し、大学院教育を行った。学会では、日本看護学教育学会教育活動委員、日本看護研究学会査読委員、日本看護技術学会第19回学術集会企画委員・査読委員・一般演題座長、第33回日本医学看護学教育学会学術集会企画委員として活動した。その他、東京都立大学にて講演、県内病院看護部にて研究指導、戸田中央医科グループ看護

局にて研修講師を行った。

#### 加藤京里

静岡県看護協会学術研究推進委員会委員として会議への参加、研修の企画を行った。また、第10回静岡県看護学会の企画、運営に携わり、演題の査読を担当した。県内の看護職向け教育研修会では、2021年7月10日に「看護研究の第一歩」、11月20日に「看護研究の基礎」の研修会担当委員として研修会の運営に携わった。

2021年11月13日に県内に勤務する看護職向けの静岡県看護協会教育研修「今こそコミュニケーションを見直そう～聴く、伝える、共有する～」において、講師を務めた。

一般社団法人日本看護技術学会技術研究成果検討委員会「温罨法班」の一員として、全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めよう：エビデンスに基づく排泄援助の技」を2022年2月5日にオンラインで実施し、「温罨法の安全性と効果」について講義を行った。

#### 管原清子

静岡市立静岡病院および静岡市立清水病院の地域医療支援委員として委嘱を受け、会議に参加し、地域医療や病院運営、感染対策に関する意見交換を行った。また、静岡市立清水看護専門学校のエデュケーション委員として会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。その他、静岡県看護協会から依頼を受け、「今こそコミュニケーションを見直そう」をテーマに看護職者を対象とした講演を行った。

#### \* 高大連携出張講義

永谷：静岡県立富士宮北高等学校

山口：静岡県立沼津西高等学校

## 4) 成人看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 成人看護学領域(学部)

##### ① 教育目的および目標

成人看護学領域における教育目的は、成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する人々とその家族を対象者とし、根拠に基づいた系統的な知識、技術を適用して、対象者の健康障害の悪化予防・回復促進・緩和に働きかけ、可能な限りその人らしい生活と人生(life)が送れるよう援助できる能力を持った人材の育成を行うこととしている。

そのような教育目的の達成を目指して、以下の教育目標を挙げている。

1. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者を、解剖・病態生理学的知識や諸理論・概念に基づき身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。



2. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者に対して、自ら判断して主体的に行動することにより、根拠に基づいた知識・技術を適用した援助ができる能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、他専門職と協働できるための基礎的能力を養う。

## ② 講義および演習

本領域では、2年次配当科目である慢性看護学概論(2単位)と慢性看護学援助論演習(1単位)、3年次配当科目である急性期看護学概論(2単位)、急性期看護学援助論演習(1単位)の計4科目(6単位)を教授している。

慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などを含む慢性疾患を有する人びととその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護である。概論および演習を通して、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、看護を実践するために必要な諸理論や概念・技術を理解し、その実際を学ぶ。

急性期看護学とは、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人びととその家族を対象とし、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を目的に行う看護である。概論および演習を通して、対象者の健康問題の特性、看護の基盤となる理論、化学的根拠に基づいた看護援助に必要な系統的な知識・技術を理解し、その実際を学ぶ。

## ③ 実習

「慢性看護学実習」、「急性期看護学実習」、「臨床シミュレーション EBN 実習」の3つの実習を行っている。各実習は2単位であり、1クールを2週間としている。

「慢性看護学実習」と「急性期看護学実習」は3年次後期に配当されている科目である。今年度の履修生は各123名であり、計42グループ、42クールの実習を行った。実習施設は静岡県立静岡がんセンター、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの4ヶ所とした。コロナ禍での実習であることを鑑み、各施設の看護部および実習部署と密に連携しつつ行った。その内、感染拡大時期のクールであった5グループは、学内での実習に切り替え実施した。

「臨床シミュレーション EBN 実習」は4年次前期に配当されている科目であり、実習施設は静岡赤十字病院である。今年度の履修生は119名であり、20グループ編成とした。実習内容としては1グループを1~2チームに分け、チーム毎に、受け持ち患者に対するEBN(Evidence-Based Nursing)に基づく看護過程の展開と臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションを行った。コロナ禍での実習であることを鑑み、看護部および実習部署と密に連携しつつ行った。

## 成人看護学分野(研究科)

成人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と院生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。学生自身

の看護実践と向き合ったうえで独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、応用演習(各現象への基本的理論の適用と評価、基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には博士前期課程1年1名、2年1名、博士後期課程1年1名の院生が在籍した。

### <領域で行っている地域貢献活動>

#### 山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員、日本看護診断学会の理事・専任査読委員、日本赤十字看護学会の編集委員、第28回日本看護診断学会学術大会の企画委員として活動した。また、静岡県看護協会主催の令和3年度静岡県専任教員養成講習会において看護教育方法論(研究方法・文献検索・クリティーク)に関する講義を行った。

#### 田中 範佳

Sigma Theta Tau International, Honor Society of Nursing の助成金審査委員、The 33th International Nursing Research Congress、Creating Healthy Work Environments 2022 の学会査読委員、Virginia Henderson Global Nursing e-Repository の査読委員、Journal of Perioperative Practice の編集委員会委員・査読委員として活動した。

看護実践教育研究センターにおいて、看護師特定行為研修の講義、演習を担当した。

#### 林 みよ子

日本クリティカルケア看護学会の理事・専任査読委員、日本救急看護学会の編集委員・倫理委員・専任査読委員、日本看護研究学会の専任査読委員、日本赤十字看護学会の専任査読委員、日本看護診断学会の専任査読委員として活動した。

静岡県立病院機構3病院師長研修の講義、静岡県立総合病院の看護部において看護研究の講義及び1年間の個別指導、奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において看護理論の講義を行った。

看護実践教育研究センターにおいて、看護師特定行為研修において在宅移行期にある脳卒中療養者・家族の地域在宅療養支援の講義および文献の読み方・論文のクリティークと事例研究のまとめ方の講義、課題研究のまとめの指導、また、臨地実習における事前学習や実習まとめの指導も行った。

#### 前野 真由美

外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会の実行委員として、11月21日「第24回外国人のための無料健康相談と検診会」を、静岡済生会総合病院にて、開催した。

静岡県立大学 令和3(2020)年度地(知)の拠点(COC)事業 地域を志向した研究「新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする医療通訳者および外国人支援者向け勉強会」を行った。勉強会の開催は、Web、対面、個別の3つであった。対面での開催は、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」にて行った。

#### 中岡 正昭

看護実践教育研究センターによる看護師特定行為研修において、急性・重症患者看護専門看護師として臨床病態生理・臨床推論およびフィジカルアセスメントの講義・演習を担当した。

### 5) 老年看護学領域の活動

#### <教育活動>

##### ① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、老年期にある対象者の生活および加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性を理解し、老年看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。

科目はH30カリキュラム：「老年看護学概論」、「老年看護援助論」「老年看護学演習」で構成されている。今年度は、COVID-19感染症予防のため、老年看護学演習は、密にならないように講義室と実習室に分散して行った。講義は、登校できない学生に対し、teamsを活用しハイブリットで講義を受けられるようにした。また学習ノートを活用した自己学習を義務付けた。

内容としては各科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する必要性を強調するとともに、高齢者看護を実践する上で必要となる基本的知識として、加齢現象や高齢者特有の症状の現れ方、認知症等の理解ができるようなものとした。また演習では高齢者の強みを活かした健康問題の抽出と、生活の質(Quality of Life)の確保と向上に資するような看護過程展開及び高齢者の倫理的課題の修得、高齢者疑似体験、看護技術(吸引、口腔ケア、経管栄養)を教授した。

##### ② 実習について

老年看護学実習I(2単位)は、3年次123名が履修した。今年度は、回復期リハビリテーション病院での実習は2年目であった。

実習施設は、5施設(静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、静岡リウマチ整形外科リハビリ病院、静岡リハビリテーション病院、山の上病院)にて実施した。

COVID-19感染症防止のため、大幅な実習時間短縮や学内実習への切り替えがあったが、学生は、受け持ち高齢者や実習指導者と積極的に関わることで、高齢に対する看護について学ぶことができたと考える。また、最終日の学内での学びの発表を通して、回復期リハビリ

テーション病棟における多職種連携のあり方から、看護職の役割について考察を深めることができたことが確認できた。

老年看護学実習Ⅱ（1単位）は、123名が履修した。介護老人保健施設の通所リハビリテーション部門にて実習を行い、在宅での高齢者支援として、要介護状態の悪化防止や介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設6施設（エスコートタウン静清、ケアセンター池田の街、アリス草薙、あみ、星のしずく、ケアセンター瀬名）を予定していたが、COVID-19感染症によるまん延防止重点措置の期間中の15名の学生は学内実習となった。学内実習では事例や動画、グループディスカッションを通し地域で暮らす高齢者支援について考えを深めることができた。実習最終日に行われる実習のまとめ発表会にて、実習施設での実習、学内実習ともに、在宅高齢者に関わる多職種間の連携や高齢者看護のあり方や役割について考察を深めることができたことが確認できた。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

##### 成瀬早苗

- 1) 健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、「県大生と熱中症予防と体操で夏を乗り越えよう！」というテーマで地域在住高齢者を対象にDVD配布による健康講座を実施した。
- 2) 看護実践教育研究センター主催 静岡県立大学から発信する女性のための健康講座～ミドル&シニア世代のこころと身体を支える～ イベントで企画・当日運営を行った。
- 3) 静岡学園高等学校1～3年生を対象に「看護の仕事について」「静岡県立大学看護学部について」というテーマで高大連携出張講義を実施した。
- 4) 静岡社会健康医学大学院大学の客員研究員、静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループとして、静岡コホート研究「かもけん！事業」に参加し、調査を実施した。
- 5) 駿河共生地区専門多職種連絡会の「生涯活躍のまち事業の支援のための専門多職種の協働研修モデル事業」のチームケアワークショップに参加した。

##### 飯塚真樹

- 1) 健康文化交流館「来・て・こ」および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、「県大生と熱中症予防と体操で夏を乗り越えよう！」というテーマで地域在住高齢者を対象にDVD配布による健康講座を実施した。
- 2) 社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園・久能の里の第3者委員を担当した。
- 3) 看護実践教育研究センター主催 静岡県立大学から発信する女性のための健康講座～ミドル&シニア世代のこころと身体を支える～ イベントで企画・当日運営を行った。

##### 宮澤典子

- 1) 静岡難病ケア市民ネットワークの補助会員として運営会議に参加するとともに、静岡市

の難病患者の外出支援やチャリティーコンサートの運営を行った。

- 2) 健康文化交流館「来・て・こ」および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、「県大生と熱中症予防と体操で夏を乗り越えよう！」というテーマで地域在住高齢者を対象に DVD 配布による健康講座を実施した。

## 6) 小児看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 学部における教育活動（講義）

COVID-19 感染症拡大の影響を考慮しながら、基本的に対面とし、2 年生後期の「小児看護学概論」、3 年生前期の「小児看護援助論」の講義を行った。自宅待機あるいは療養中などの学生に対しては、ハイブリッド形式による対面講義と並行したオンライン授業を展開した。4 年生の「卒業研究」では、双方向による web 授業で主体性のある学習を促し、対面での卒業研究発表会に向け PowerPoint を使用したシミュレーション発表を指導した。

#### 学部における教育活動（演習）

3 年生を対象とした「小児看護学演習」では、参集型の演習を実施した。昨年同様に、参集による感染拡大を予防する対策を並行し、学生が公平に演習への参加ができるよう演習内容の構成や演習体制の工夫を行った。演習内容の構成においては、DVD 事例を基にした実技演習や看護展開、思考の整理を課題としたグループワークを企画した。演習体制の工夫としては、同じ演習内容に参加する学生数の制限や短大の演習室を借用した演習場所の拡大を図った。また、参集に制限が必要な学生においては、リモートを活用したグループワークの参加を推奨し学習の機会を保障した。特別講師として、静岡県立こども病院の副看護部長及び MSW を招聘し、こども専門病院における看護実践や多職種連携について学び、学部間協力員となった松平千佳准教授の協力を得て、小児看護に重要なプレパレーションについて学習する機会を得た。座学による思考が主体となる演習内容及び時間配分の傾向があったため、実技に関する内容の習得の不十分さがあった。引き続き一人当たりの実技時間を増やした演習内容の工夫を課題とする必要がある。

#### 学部における教育活動（実習）

3 年生を対象にした「小児看護学実習」では、実習学生が実習開始前までに 2 回のワクチン接種後 2 週間を経過している状況であったため、実習施設（静岡県立こども病院）で、原則通常通りの 2 週間の実習を行うことができた。なお、静岡県に「緊急事態宣言」「まん延防止重点措置」発令があると実習施設での実習受け入れが困難となり、49 名（40%）の学生が余儀なく学内実習になった。学内実習では、実習施設の臨床指導者の web 参加協力があり、臨床判断能力を丁寧に教授できる学習活動を行うことができたが、臨地実習は本来学生が、子どもと家族の状況や反応を観察し個別性のある看護や、臨機応変に対応する看護実

践を学び、看護の悦びを感じることが出来る貴重な看護体験の場であり、不可欠な学習活動である。また、学生が進路選択を考える場にもなる。来年度も、COVID-19 感染症対策が必要になることが予想されるが、臨地での実習を遂行できるように実習施設と密な連携を図っていく必要がある。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、将来の活動の場を小児看護領域で考えている学生を対象に、静岡県立こども病院で2週間の「患者中心の看護」を強化して学ぶ機会とした。なお、予定実習期間に「緊急事態宣言」「まん延防止重点措置」発令があり、7名(50%)の学生は余儀なく学内実習に変更せざるを得なかった。

#### 研究科における教育活動

COVID-19 感染症拡大の影響を考慮しながら、研究科学生の主体的な学習が促せるように原則対面での研究指導を行った。今年度、小児看護学分野には博士前期課程2年生3名が在籍した。うち1名は、COVID-19 感染症対応に迫られる保健師の仕事の傍ら修士論文執筆となったが、3名とも論文審査・最終試験に合格し、修士(看護学)の学位が授与された。また、助産学選考の学生の論文指導(副査)を担当した。

その他、博士前期課程の学生を対象にした「看護倫理特論」の授業(10コマ)、博士後期課程の学生を対象にした「看護学研究特講」の授業(2コマ)を担当した。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

##### 山下早苗

実習施設である「静岡県立こども病院」看護部と協働し、CCU病棟で開催する看護倫理カンファレンスに2回/月参加し、倫理カンファレンス運営やファシリテータ教育に携わった。また、クリニカルラダーレベルⅢにあたる看護師11名を対象に「看護研究」の講義・演習を行った(12時間)。

山梨県立大学研究科の非常勤講師を継続し、「看護倫理」の授業を5コマ(1コマ90分)担当した。

その他、「看護科学研究」雑誌の編集委員および「日本看護倫理学会誌」「日本放射線看護学会誌」の査読委員を継続担当し、研究支援を行った。

##### 鈴木和香子

静岡市医療的ケア児等支援協議会の委員として、静岡市内の医療的ケア対象児の就学問題、家族問題など課題の取り組みを中心的に行った。

がん患者やその家族、支援者らが本学草薙キャンパス芝生園地にて24時間リレーを行うイベントのリレー・フォー・ライフジャパン静岡2021実行委員としてイベント運営にかかわった。また、がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業・静岡県対がん協会ピアサポーター養成研修の研修会内において、「模擬相談」でピアサポーターとしての実際や体験を学ぶための演習を担当した。

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3月(継続看護師対象)、

4月（新任看護師対象）、年2回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。

静岡県看護協会主催の「静岡県専任教員養成講習会運営委員会の委員として、講習会のカリキュラム、講義内容、受講者の合否判定、などの運営にかかわった。

その他、静岡県立看護学校の非常勤講師、伊豆の国市子育て支援技能講習会講師、静岡県小児保健協会の実行委員兼事務局、難病の子ども支援全国ネットワークの静岡委員、HPS国際シンポジウムの実行委員として活動した。

#### 池田麻左子

静岡県立こども病院看護部に所属し、嘱託看護師としての兼務を継続した。

小児臨床看護学の特別講義として、豊橋創造大学保健医療学部看護学科2年生約80名に対し、テーマ「障害のある子どもと家族への看護について」を実施した。非常勤講師として、岐阜県立大学大学院のCNSコースの院生に対する後期semesterの講義「小児看護アセスメント論」を担当しWEB形式で実施した。

静岡市静岡中央子育て支援センターの事業に参画し、子どもの日常における事故に関する講座の講師を務めた。

その他、小児看護専門看護師の活動として、小児看護に関する学会や専門看護師会等が開催する学術集会及びセミナーでの講師やファシリテーターを担った。

#### 丸山始美

静岡県立大学における新型コロナワクチン職域接種では、看護師の業務の流れについてのマニュアル作成に携わり、第1回接種（8月30日～9月8日）、第2回接種（9月27日～10月6日）ともに従事した。本学の学生及び職員に対して、新型コロナワクチンの予防接種を行い、健康観察や副作用出現時の対応を実施した。

高大連携として、7月に静岡県立清水南高等学校の2年生に対して、「静岡県立大学の概要、看護師の役割、高校の時にやっておくと良いこと」について対面形式で講義した。

静岡県立大学看護学部COC事業として、11月に「静岡県立大学から発信する助成の健康を支える事業～ミドルエイジの健康と心と身体を支える～」が開催され、支援を行った。

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室の依頼により、3月に看護師等研修会（継続看護師対象）が開催され、支援を行った。

## 7) 母性看護学・助産学領域の活動

### <教育活動>

#### (1) 学部 母性看護学

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護ケアの考え方、ケア方法について教授している。担当講義科目は、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、2年次に概論的な講義から基礎知識を学び、3年次には各論

的な講義から専門的な知識へと段階を追って学びを深めた上で、演習を通して思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習で統合するという流れで組み立てている。今年度は、COVID-19の影響で、対面での講義・演習と Microsoft Teams を用いたオンラインライブ講義+LMS 方式を併用して行った。

母性看護学概論では、母性看護学の対象となる女性および家族に目を向けた健康課題や法的制度にも関心を持って関わられるような講義を展開した。女性特有の疾患に関する病態や治療、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義から診断技術について理解を深めた。そして、性感染症、不妊症、出生前診断など、報道等でも目にする機会の多いテーマを学生自らが選択し、文献学習を経て自分の考えをレポートにまとめた。また、セクシャリティーに関する問題を身近に捉えるために、開業助産師による性教育の実際についての講義を実施した。

母性看護学援助論Ⅰでは、生殖の生理から、正常、異常を含めた妊娠・分娩・産褥経過について現場で活躍している産婦人科医師による講義を組み入れ専門的な知識の修得を図った。母性看護学担当教員は、母親になることへの支援に向けて、産褥経過や新生児に関する概論的な知識と母子相互作用からみた母乳育児支援についての講義を実施した。

母性看護学援助論Ⅱは、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、3名の担当教員により、オムニバス形式で講義を実施した。看護過程は、事例を用いながら個人による課題学習を進めると共に、看護過程の展開への理解を深めるため、教員が学生一人ひとりの看護過程を添削した。

母性看護学演習では、担当教員が、各技術項目の内容、デモンストレーションの見やすさ、指導について事前に検討し、褥婦の健康診査、新生児のフィジカルアセスメントと沐浴、産後に必要な癒しケアとして足浴とハンドマッサージ、母乳育児支援のための適切なポジショニングとラッチオンに関して演習を実施した。健康教育では、グループで企画・進行・媒体作成、健康教育の実施とその評価までの一連のプロセスを体験し、グループ発表することにより学びを深めた。

母性看護学実習は、2週/1クール5~6人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の6か所であったが、COVID-19の影響のため、静岡県立総合病院は実習中止となった。そのため、4グループの内、2グループは他施設に変更し、2グループは臨地と学内実習を1週間ずつ交代で実施した。また、焼津市立総合病院は、1日1名のみ病棟実習可という人数制限があったため、学生は交代で1~2日の臨地実習、それ以外は学内実習を行った。静岡赤十字病院での実習は、午前中臨地実習を実施し、帰宅後 Teams によるオンラインでカンファレンスを行った。藤枝市立総合病院は、1グループが半日のみで臨地実習中止となり、学内実習へ変更した。臨地実習では、1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、産褥期の集団健康教育や産婦人科外来での実習を行った。学内実習では、経膈分娩と腹式帝王切開術



での分娩のビデオを視聴した後、母乳育児が困難な症例の入院中から退院後までの経過を収録したDVDを視聴し、褥婦の看護過程の展開、健康教育のロールプレイ、実際のケアのシミュレーションを実施した。実習最終日のまとめの会では、臨地および学内実習での学びを文献検討で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習Ⅰ・Ⅱは、4年生11名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所1か所に4名、母乳育児支援や産後ケアを行う助産所2か所に1名ずつの学生が実習を行い、地域における助産師の子育て支援について学びを深めた。今年度は、COVID-19の影響で、子育て支援を行っているNPO法人バディプロジェクト主催の育児イベントの開催がWeb配信での実施となった。学生5名は、個々に実習計画を立案して主体的に主催者とコンタクトをとり、一部のイベントを担当し、積極的に取り組んだ。12月に発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・藤田・中川・高木・大和田が各2名の学生、福島・永谷が各3名の学生の計16名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを対面またはMicrosoft teamsを使用したオンラインで研究指導を実施した。

## (2) 大学院博士前期課程 助産学課程

博士前期課程2年生7名、1年生7名が在籍した。

1年次は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。今年度はCOVID-19感染防止の観点から、県外在住の非常勤講師担当講義・演習についてはMicrosoft TeamsまたはZOOMを活用したオンライン双方向形式を採用したが、原則として対面での講義・演習とした。

助産診断学演習のPBLを用いた授業を展開した。妊娠期助産診断技術学と妊娠期助産診断技術学演習では、臨床での妊婦健康診査実習に向けて学内で必要な知識習得のための講義と演習を行った。いずれも感染対策を講じながらすべて対面で実施した。助産技術学演習の分娩期のシミュレーションは、自宅待機中の学生も参加できるよう対面+オンライン双方向のハイブリッドで実施した。統合ヘルスケア論では、妊産婦の冷えと助産ケア、周産期の植物療法に関するオンライン講義に加え、東洋医学のオンライン技術演習を実施するなど、助産師に必要不可欠、且つ、より豊富な知識が習得できるように内容の充実に努めるとともに授業方法を工夫した。新生児蘇生法(NCPR)講習会は、対面で実施し1年生7名全員が専門コースの認定を受けた。リプロダクティブ・ヘルス演習は、リプロヘルスサポーター認定に向けて、開業助産師をはじめとする地域の専門家の講義、避妊法・受胎調節法に関するプレゼンテーションを実施した。さらに本学看護学部1年生を対象とした、『自分と大切な人を守るために考えよう～今と未来の自分のからだ～』と題し、対象者が将来を見据えて、自分の生活習慣を見直すことができるよう参加型形式の性教育講座を計画・実施し、高評価を得た。助産学概論では、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実に努めるため、「周産期のメンタルヘルス」の講義を行った。さらに、助産管理論では、大学院で学んだ助産学

生として、政策的に助産師の活動をとらえ将来、活動することを狙い、「助産と政策」の講義を行った。実際に「助産と政策」では、日本看護協会会長の福井トシ子先生をお迎えしてオンラインによる公開講義を実施した。その後、政策提言に関して各学生が作成し、発表検討を行った。修士論文のゼミは通年で行い、Evidence-based Midwifery のステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導を Microsoft teams を用いたオンラインによりゼミを行った。

臨地実習は、COVID-19 感染拡大に影響により、実習施設、期間、内容について変更および調整しながらすすめた。各年次配当実習について、1 年生 7 名、2 年生 6 名が履修した。

1 年次の妊婦健康診査実習は、一部施設において学生数制限はあったものの、7 名全員が妊婦健診および個別健康教育実施の機会を得た。助産学準備実習および助産学実習は、7 名のうち体調不良者を除く 6 名の学生が静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の 3 か所で実習を行った。学生は臨地にて妊婦の健康審査や保健指導を経験し、妊娠末期からの継続事例 1 例を含む分娩直接介助（9 例：1 名、8 例：2 名、7 例：3 名）を経験した。地域助産学実習第 1 期は、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 3 名、エス・アール・ハウスで 2 名が実習し、地域における助産師の役割と活動について学びを深めた。地域助産学実習（第 2 期）では、母子保健包括支援の観点から、地域における女性や母子の生活および支援、助産師の活動に焦点を当て、実際の健康課題をとらえ理解するため、各学生が各々実習先について調査しフィールドワークを行った。NICU 実習（周産期助産学演習）は、まん延防止等重点措置のため実習施設 3 施設のうち 2 施設において臨地実習が中止となった。配置学生 5 名について、臨地実習施設看護師らによる遠隔講義を含む 4 日間の学内実習を実施した。臨地実習可の 1 施設では、2 名の学生が NICU/GCU 入院児を受け持ち、ケア等の見学・実施を経験したが、1 名は体調不良のため途中で学内実習に切り替えた。学内・臨地実習ともに、1 例のハイリスク母子の看護過程を展開し、胎児期からのつながりとしての母子の理解と支援、ハイリスク母子にかかわる多職種連携について学びを深めた。

2 年次の助産学統合実習において学生は、妊娠末期から継続事例 1 名を受けもち、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 3 名、エス・アール・ハウスで 1 名が地域における助産師のプライマリケアと職責について学びを深めるとともに、より質の高い助産ケアを習得した。

修士論文指導は、太田が 3 名、藤田、中川が 2 名ずつの学生を主指導教員として担当した。全員、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得した。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、7 名が 2 月の助産師国家試験を受験した。

看護学研究科を含む、助産師養成課程への進学希望者を対象に、9 月（第 8 回）と 3 月（第 9 回）に助産について語る会（MJ café）を開催した。参加した学部生は 9 月が 14 名、3 月が 12 名であり、進学への関心が高まった様子がうかがえた。

### （3）大学院博士前期課程 実践看護学領域（助産学）

1 年に 1 名の学生が在籍した。実践看護学特論 V、実践看護学応用演習 V を太田と藤田で担当した。実践看護学特論 V は、RCT、質的研究、質問紙調査などのクリティークを行

った。また、学生の関心のあるテーマで文献を読み進めた。実践看護学応用演習Ⅴでは、学生のテーマであるペリネイタル・ロスに関して、テーマごとに論文を読み、レビューしたものをレゼンテーションすることで既存研究の動向、修士論文のテーマを絞っていった。長期履修制度を利用して3年間で論文を進めていく予定である。

### <領域で行っている地域貢献活動>

例年開催している、助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」は、COVID-19感染拡大の影響で開催できなかったが、規模を縮小してオンラインで情報交換を行った。領域で主催した公開講義・特別講義は、「周産期医療と臨床倫理」(埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター新生児部門教授、加部一彦先生)、「看護者に必要なセクシャルマイノリティの現状と支援—国内外の先駆的調査からみた健康教育・看護ケア—」(大手門大学国際看護学部教授、藤井ひろみ先生)である。

静岡県立大学COC地域志向研究の採択を受け11月に開催された、看護実践教育研究センター主催(「ふじのくに」みらい共育センター共催)の地域貢献事業、「県立大学から発信する女性の健康を支える健康プロジェクト」の企画・運営に参加した。

静岡市助産師会と共催で、4月1日から5月7日まで小鹿キャンパス共有スペースにて、助産師と助産所の活動を広めることを目的に助産所で生まれたばかりの赤ちゃんを囲む家族の写真など、10枚の写真パネルを展示した。

太田は、第33回静岡県母性衛生学会学術集会の理事、副議長として、総会の議長と一般演題の座長を務めた。ペリネイタル・ロスに関しては、昨年同様、COVID-19感染拡大のため、東京で開催している「天使の保護者ルカの会」への参加は自粛し、看護者向けのペリネイタル・ロス看護者研修プログラムも中止した。研修会の講師については、恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター主催「周産期医療研修会 看護Aコース：産科編」の研修会(対面とオンラインのハイブリッド型)の講師を勤め、また、静岡県健康福祉部こども未来局こども家庭課の依頼を受け、母子保健指導者研修会に於いて、保健師対象にペリネイタル・ロスのテーマで講演を行った。参加者は70名と多くの自治体からの参加があり、好評であった。

中川は、日本助産学会誌の専門査読委員として、投稿論文の査読に携わった。全国助産師教育協議会の教育検討委員として、助産師教育のコア内容におけるミニマム・リクワイアメントの再検討を行った。公益社団法人桶谷母乳育児推進協会と株式会社ニコワークスによる妊婦向けの「妊娠中から始める母乳育児」の講演をオンラインで実施した。メディカ出版より、「THE分娩」を編著で出版した。

藤田は、静岡市男女共同参画審議員として、男女間の暴力の根絶、防災、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。藤枝市子どもの生命を守るための思春期講座開発事業のアドバイザーとして、子どもの命を守るために必要な知識について教材開発に携わ

った。東海地方の女性相談員研修の講師として、東海地方の女性相談員を対象にDVや性暴力に関する講演を行った。静岡県中部健康福祉センター主催の妊産婦及び母子支援ネットワーク会議において、事例検討のワークショップ及び切れ目ない子育て支援に関する講演を行った。

福島は、日本母子看護学会にて「多言語対応産科クリニック利用妊婦の災害への備えと支援の検討」（口演）、「助産師が行ういのちの教育に関する文献検討ー児童・生徒の学びに焦点をあててー」（示説）を発表した。また、助産実践能力習熟段階（CLoKMIP®）[ウイメンズヘルスケア区分]レベルⅢ認証アドバンス助産師として静岡県看護協会新人助産師研修会において「助産師のキャリア形成」の講師を務めた。多言語対応産科クリニックの医師・助産師と協力し、利用妊婦向け防災冊子「Is That OK? – Better Preparation for a Major Earthquake」を作成した。

永谷は、小鹿キャンパス内で女性健康相談室を毎月1回開催し、健康相談を行った。そして、「静岡支援センターみらい」において精神看護領域の教員と精神障害を持つ方を対象にアロマを用いたプログラム実施し、その中で更年期女性の健康についてアドバイスを行った。焼津市介護保険審査会の審査委員として認定審査に携わった。また、一般社団法人 Fumi Horiguchi ウイメンズヘルス研究所の幹事として、女性の健康に関する配信内容の作成やオンライン研修会の企画・運営に携わった。

高木はNPO法人 place of peace と共催でパートナーが妊娠中の父親を対象とした「ハッピーパパマタニティ講座」と「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」をそれぞれ1回ずつ企画、実施した。

大和田は、NPO法人 place of peace の会員として、開業助産師らとともにパートナーが妊娠中の父親を対象としたオンライン講座「ハッピーパパマタニティ講座～家族を笑顔にするパパになる～」を企画・実施した。

## 8) 精神看護学領域の活動

### <教育活動>

精神看護領域では、人間関係論、精神看護学概論（旧カリ：対象の理解Ⅳ、病態学Ⅳ）、生涯発達心理入門、精神看護援助論（旧カリ：精神看護学）、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門を担当している。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護実習、災害看護演習を担当した。

今年度はCOVID-19感染問題のため、前期・後期共に対面とチームスによる遠隔授業を実施した。各授業担当者が対面、遠隔授業にかかわらずわかり易い授業となるように、各種資料を作成し、動画による授業を実施した。

また、以前から実施している外部講師を招聘し臨床現場の実際（当事者からの体験談、司法精神看護、精神科の看護管理、精神保健医療福祉における自殺防止対策等）についての

講義を実施した。現場のリアルな状況について看護職から直接話を聞く機会は、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高めることにつながっていた。

精神看護学実習においても当初は対面で行ったが、今年度は COVID-19 感染問題のため、途中から臨地実習が大幅に削減された。作業所実習では、1 日ごとに別の作業所で実習を行い、各施設の特徴や通所者にとっての役割の違いを学んだ。さらに、これまで特に病院実習において患者との関わりを通して学習してきた、コミュニケーション・ストレングス・患者への関わり方等については各種課題を出して、学内での DVD 視聴・グループワーク・課題提出用録画作成等と、オンラインでのグループ検討・課題結果の発表等を行った。

今年度は、昨年度には行えなかった見学実習が一部再開され、沼津中央病院とところの医療センターの二施設で行うことができた。

発展看護実習においても、今年度は COVID-19 感染問題のため、精神看護学実習と同様に臨地での実習が大幅に削減された。

学生達は、精神障がいを抱えた方々が地域の中で生活することの意味や課題を、3年次に行った精神看護学実習での学びを基に、作業所や支援センターでの実習を通して改めて考え、理解を深めることができた。さらに、精神保健福祉センターでの行政機関の取り組みの実際を知ることで、精神保健を広く発展的に理解する機会を得ることができた。来年度は、今年度の学習スタイルを踏襲しながら、病院の外来デイケア部門での実習を少しでも取り入れることができるよう、実習施設側に働きかけていく予定である。

最新看護の動向では、国内外の精神保健福祉の領域をけん引する講師（作家、精神科関連看護師）を招聘して、講義を行った。臨床心理学入門、生涯発達心理入門では学内外の心理職や、LGBTの当事者や、障害を有する当事者の家族等の話を聞く機会を設けながら、心理学全般や、生涯発達の基礎について学ぶ機会を提供しながら講義を展開した。

大学院では精神看護学に関連する講義を担当した。また修士論文指導では主指導教員として二名の修士学生の指導を行った。また副指導として二名担当した。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

今年度は、昨年度実施した日本学校メンタルヘルス学会第24回大会の報告として学会誌への原稿を編纂し、報告を行った（篁、近藤）。

上記以外に、各教員が以下のことを担当した。

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、認知症対策推進協議会の会長、精神医療審査会の審査委員、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員の役割や清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。

長澤は、静岡県専任教員養成講習会：専門領域別看護論演習（公益財団法人静岡県看護協会）を担当した。

近藤は、静岡市地域活動支援センターみらい運営委員を担当した。

遠藤は、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。

## 9) 公衆衛生看護学領域の活動

### <教育活動>

#### (1) 講義・演習

昨年度より公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱが4年次に実施されるようになった。それにより3年次の実習直前に実施していた公衆衛生看護学演習の内容の見直しが必要という評価に基づき、今年度は講義、演習、実習が連続して効果的に学生に教授できるように授業内容の検討を行った。

講義は新型コロナウイルス感染症対策として対面とオンラインによるハイブリッド講義を行ったり、学生によるグループ・ディスカッションを極力減らし、個人の考えを深められるような個人学習の課題を用いた。また、公衆衛生活動の実際や健康課題を有する当事者等、随時ゲストスピーカーを招聘して学生の理解を進めたり、リアクションペーパー等を活用して双方向のコミュニケーションを図り、学生の学習効果が高まるように配慮した。

公衆衛生看護学演習では、実習をイメージできるように「ある地域」を事例とした地域診断、その地域の健康課題の解決に向けた健康教育の企画、その地域に暮らす母子のアセスメントと家庭訪問計画の立案を行った。ひとつの地域を事例に用いたことで、学生は地域住民の健康課題が地域の健康課題につながり、その解決のために個人・家族、集団・地域にアプローチする方法と必要性を学べたようであった。なお、新型コロナウイルス感染症対策のために学生を3教室に分散させてグループワークを行った。

#### (2) 実習

##### ①公衆衛生看護学実習Ⅰ

4年次前期に10日間実施したが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、10月まで実習期間を延長した。しかし、オンラインによる実習となったグループもあった。

実習Ⅰでは実習施設の管轄する地域における生活集団を対象とした地域診断を実践する。学生は地域の統計資料、地区踏査、住民からの聞き取り、地域の自治会長や民生委員、保健に関する施設の方などへのインタビューにより担当地区の健康課題を検討した。オンライン実習となったグループは少人数、短時間による地区視診、オンラインによる住民や関係者へのインタビューを行い、統計資料や地域の歴史等を踏まえて地域診断を実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨地実習にも制約があったり、オンライン実習になったりしたが、昨年の経験を踏まえて制約があるなかで関係者と密に調整して参加する事業を絞り込んだり、オンラインでも臨地実習の学習に近づける方法を工夫した。

##### ②公衆衛生看護学実習Ⅱ

実習Ⅰに続けて4年次前期に10日間実施した。実習Ⅰと同様、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、10月まで実習期間を延長したが、オンラインによる実習とな

ったグループもあった。

実習Ⅱは「行政」「産業」「学校」に分散し、対象の健康課題を捉え、その解決に向けた生活支援を行う。

「行政」では臨地において健康教育を実施できたグループもあったが、オンライン実習では保健事業の動画視聴や実習担当者から提示された事例を用いた家庭訪問における保健師のあり方を検討したり、実際の事例を実習担当者とともに検討するなど、実習目標を達成できる工夫を図った。

「産業」は1グループのみが臨地実習とオンライン実習の併用となったが、リアルタイムで実習担当者との質疑応答や助言を得られるようにした。しかし、職場巡視を実施することができず、作業環境・作業状況と健康との関連を体験としては学べなかった。他グループは職場巡視、保健指導、健康教育等を実施し、産業保健チームの一員として他職種と連携して行う産業保健活動の展開方法を学び、産業保健師の役割を考察できた。

「学校」は小・中学校、特別支援学校、児童心理治療施設で実習を行うが、特別支援学校のみオンライン実習となった。学生は小・中学校で対象となる児童生徒等の成長発達や健康課題を理解し、それに沿った保健指導や保健だより等を作成した。特別支援学校についてはオンラインにより概要と養護教諭の業務等に関する講義を受講し、質疑応答の時間を設けた。児童心理治療施設では施設の概要と各職員・保健師の役割について講義を受け、そこで生活する児童の特徴および支援の実際を学べた。実習最終日には、実習内容の発表を行い、児童生徒の発達と健康課題、養護教諭の役割等、広く学校保健についての学びを深めた。

なお、同時期に実習しているグループは実習施設を問わず、それぞれの施設に従事する保健師の役割について発表する。「行政」「産業」「学校」の保健師の活動および役割を共有することで、学生はさらに深く保健師の役割を考察することができた。

### ③公衆衛生看護基礎実習

新型コロナウイルス感染症の拡大のために、2年次後期に5日間、遠隔にて実施した。実習施設は、保健所は静岡市保健所と静岡県富士健康福祉センター、保健センターは静岡市と富士市、事業所はジャトコ株式会社の5施設であった。今年度は事前に撮影した動画視聴とリアルタイムで各施設とオンラインでつなぐ実習を行い、実習指導者と学生の質疑応答時間を設けた。また、学生自身が居住している地域の地区視診を学生が各自で行い、実習最終日にその結果をグループ発表したことで、学生は地域の多様性を理解でき、地域において人々の健康支援活動を行っている保健所、保健センター、事業所の産業保健部門の保健師の役割を理解できた。

学生は、本学習を通じて保健師国家試験受験資格取得課程の選択の意思決定をしやすくなり、選択しない学生にとっても、地域に暮らす人々への保健活動の学びは、医療機関から地域へと看護が継続されていることの理解に役立っている。

### <領域で行っている地域貢献活動>

静岡市新任期保健師研修に協力し、新任期1～3年目の保健師を対象に、地域診断と地区活動に関する講義を6月に行った(鈴木千智)。7月に1年目保健師を対象に地域診断の進め方に関する講義を行った(佐藤)。10月には2年目保健師の今年度の取り組みについての中間発表への助言(鈴木千智、安藤)と講義(鈴木千智)を実施し、1、2年目保健師のグループディスカッションのファシリテーター(鈴木千智、安藤)を行った。1月に1年目保健師の研修報告会での助言を行った(佐藤、栗田)。3月には2、3年目保健師の取り組みへの講評と助言をした(鈴木千智)。

浜松チャイルドライン相談員研修会の講師として、7月に18歳以下の子どもを対象とした電話相談員を対象に講義を行った(伊藤)。

静岡県から静岡県看護協会が委託を受けている静岡県専任教員養成講習会にて、看護教育課程論(保健師課程)の講師として、7月に講義を実施した(鈴木千智)。

静岡県立静岡がんセンター/静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程の講師として8月に認定看護師教育課程乳がん看護概論の講義をZoomにて実施した(鈴木千智)。

中部健康福祉センター新任期保健従事者現任研修に協力し、新任期1～3年目の保健師を対象とした講師として12月に地域診断に関する講義を行った。3月に予定していた研修は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となったが、受講者の課題に関する助言を紙面にて行った(畑中)。

静岡県傷害者福祉課主催の静岡県発達障害者支援地域協会の委員、静岡県国民健康保険団体連合会主催の保健事業支援・評価委員会の委員を務めて、定期的な会議に出席、助言をしている(杉山)。第3回目となる全国児童相談所に働く保健師のつどいをZoomにて開催した(杉山、鈴木、安藤、伊藤)。賀茂健康福祉センター管内の新任期職員研修の講師、賀茂地域保健福祉研究発表会の講師として講義と研究助言を行った(杉山)。

## 10) 在宅看護学領域の活動

### <教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。看護学研究科の科目編成は、博士前期課程「家族看護特論」「広域看護学特論Ⅰ、Ⅱ」「広域看護学応用演習Ⅰ」「広域看護学特別研究」博士後期課程「地域・在宅看護システム特講」「看護学特別演習」「看護学特別研究Ⅰ」である。

在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護



技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義・演習科目の授業は対面とオンラインを併用し構成した。

学部1年生の「地域包括ケア」では、地域住民を中心とした地域包括ケアにおいて、あらゆる健康状態にある人々の生活を支える多職種連携と、看護専門職者の役割・機能について理解を深めること、学部2年生の「地域家族支援論」では、現代の多様な家族の健康課題への支援について理解を深めることを学習目標とし、オンラインでのグループワークを取り入れた授業を展開した。

学部3年生の「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」は、ハイブリッド授業を実施した。「在宅看護学概論」での学びを基盤に、「在宅看護学演習」では、医療機関や行政機関、訪問看護の立場において静岡市の地域包括ケアシステム推進に取り組む講師の活動事例から、地域包括ケアにおける多職種連携や看護実践について学ぶ構成とした。「在宅看護学実習」は、訪問看護実習、在宅ケア実習の2部構成としている。訪問看護実習では、①訪問看護事業所から提供を得た療養者事例の看護過程展開(学内)、②臨床判断能力テスト(学内)、③医療機関において在宅復帰を予定する患者への多職種連携支援(JCHO桜ヶ丘病院)内容とした。訪問看護事業所の実習指導者には大学へ来学、またはオンライン通信にて実習指導をいただいた。在宅ケア実習では、重症心身障害児者通園施設の協力を得て作成した視聴覚教材を用い、グループワークの実施、施設の看護師が参加するオンラインカンファレンスを実施した。

看護学研究科では、博士前期課程2名、博士後期課程1年1名は修士・博士論文計画書の審査に合格した。博士後期課程2年1名は、倫理審査の申請・承認を経て研究実施に取り組むことができた。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

##### 富安眞理

- 1) 静岡市在宅医療・介護連携協議会委員、健康福祉審議会委員、介護保険専門分科会会長として、議会運営に参画した。
- 2) 日本看護科学学会誌、日本難病看護学会誌の査読を担当した。

##### 加納江理

- 1) 静岡県看護協会認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師、セカンドレベルコーディネーターを担当した。
- 2) 日本看護学会学術集会の査読を担当した。
- 3) 浜松市介護認定審査会の認定審査員を担当した。

##### 膽畑敦子

- 1) 静岡県訪問看護ステーション協議会 新卒訪問看護師育成委員会委員として会議に参加した。

2) 静岡県訪問看護ステーション協議会主催「認知症訪問看護研修」講師を担当した。

#### 榊みのり

- 1) 日本腎不全看護学会の慢性腎臓病看護 第6版の分担執筆(倫理的視点の活用の仕方等)を担当した。
- 2) Renal Replacement Therapy の査読を担当した。
- 3) 日本腎臓学会にて作成中の「高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法の考え方と実践」の分担査読を担当した。

## 11) 国際看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康維持・改善のために、地球規模の健康格差との背景を学び、国際保健における看護の役割と実際を学ぶ学問である。本領域では、災害看護も担当している。従って、学生は、国内外で起こる災害の種類、災害対策・疾患予防や、災害時支援における看護の役割と実際についても学習する。開発途上国、先進国、在留外国人の健康問題、災害発生前の対策や発生後について、それぞれの国・文化・宗教・言語などを考慮した看護について理解を深め、文化的能力を身につけるべく、学習し実践する。

2021年度は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し大学の方針に合わせつつ、対面式授業、オンライン授業、ハイブリッド式授業を取り対応してきた。本領域での教育的取り組みは、例年同様、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践家・教育者・研究者たちを「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「災害看護セミナー」「発展看護実習」の1～2コマにゲスト講師として招き、国際保健や災害看護の最前線の学問や状況について学生が学習できる機会を提供した。ゲスト講義を含む全ての授業において学生参加型の多様なアクティブラーニングを実施した。

また、昨年同様、本大学のプロジェクトである「文部科学省・大学の世界展開力強化事業～Collaborative Online International Learning (COIL)型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」にも積極的に取り組み、合計10回のCOIL授業を達成した。

実施日	科目名	オンライン接続先	学生参加数
2021/05/07	発展看護実習(国際看護)	オレゴン健康科学大学看護学部	3名
2021/05/25	発展看護実習(国際看護)	オレゴン健康科学大学看護学部	3名
2021/07/13	国際保健・災害看護論	ポートランド大学看護学部	115名
2021/07/14	発展看護実習(国際看護)	コンケン大学、ドルノゴビ医科大学、ポートランド大学、上智大学	3名
2021/11/27	国際看護論	コンケン大学看護学部	50名

2021/12/17	災害看護セミナー	オレゴン健康科学大学看護学部	115名
2022/01/12	生命倫理入門	マヒドン大学公衆衛生大学院	49名
2022/01/17	災害看護セミナー	ボストンカレッジ看護学部	115名
2022/02/27	卒業研究ゼミ(老年看護)	オレゴン健康科学大学看護学部	1名
2022/03/08	卒業研究ゼミ (国際看護・老年看護)	オレゴン健康科学大学看護学部	3名

参照：<https://www.us-coil.jp/jyugyou/#e1edf97a>

7月14日に開催した4か国5大学合同のCOIL授業では“Health promotion practices among nursing students”をテーマとし、各国の看護学生が大学生活や日常生活での健康にまつわる事柄を、英語のプレゼンテーションで紹介し英語による活発なディスカッションも行った。2年生の必修科目では、学生は英語での質問やリアクションペーパー記載を行い、外国人のゲスト教員と共有した。

2022年3月8日は、根岸講師がオレゴン健康科学大学看護学部の国際看護の授業にゲスト講師として招聘された。このゲスト授業は本学生3名と老年看護学領域の教員（成瀬教授、飯塚助教、宮澤助教）と基礎看護学領域の倉本助教も参加して、学生・教員による合同プレゼンテーション「Healthcare system in Japan」を実施した。COIL授業に参加した本学生たちは、日本語や英語で積極的に発言・交流し、これまでの授業の成果を発揮することができた。また、もっと英語力を上げたい、国際看護を勉強したい、国際交流の機会が欲しいなどの声が聞かれ、今後も英語や国際看護学を学習する動機づけとなったと思われる。

4年生の卒業研究では、2名の学生が看護の国際的な学術集会や研究に強い興味と意欲を示したことで、2022年8月にWeb上で開催される「Sigma's 33rd International Nursing Research Congress」国際学会に抄録の応募を試みた。結果、1名の「災害時に看護師が行う潰瘍性大腸炎患者への支援に関する文献検討」がポスター発表に採択された。また、2019年度と2020年度の計3つの卒業研究が、今年度の2つの国際看護Web学会（①International Council of Nurses 2021 Congress ②Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 46th Biennial Convention どちらも2021年11月実施）に採択されていたため、卒業生3名の英語によるポスター作成と学会発表の指導を行った。

これらの教育的活動を通し、本学生や卒業生たちは各国の医療や看護問題について学習するだけでなく、異文化理解を深め、国際性を学び実践することができたと思われる。また、COIL提携校（ポートランド大学、ボストンカレッジ、マーケット大学）・協力校（オレゴン健康科学大学）、本学部との協定校（タイ国立コンケン大学）教員たちともオンライン交流を続けており、引き続き協働的なグローバル教育活動に努めていく予定である。

### <領域で行っている地域貢献活動>

#### 国際看護学領域

これまでの本学部の COIL 授業の実績を認められ、今年度の日本看護系大学協議会 (JANPU) の国際セミナーでの講演依頼を受けた。渡邊順子副学長と根岸講師は、2022 年 2 月 19 日に Zoom ウェビナーで全国からの参加者約 200 名の JANPU 国際セミナーにて講演した。

## 2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動

### 1) 研究活動

#### 原著論文

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
太田尚子	被虐待経験をもつ女性に対する妊娠期から育児期における助産師の関わり、中村岬、藤田景子、太田尚子(3名)、母性衛生、62(4)、p594-601、2022
山田紋子	看護診断・介入・成果の記録の質 (Quality of Documentation of Nursing Diagnoses, Interventions, and Outcomes) 日本語版尺度及び評価基準ガイドラインの検証,福田和明,山田紋子他(10名),看護診断,26(1),13-21,2021.
井上健一郎	Inoue K, Sagawa T, Takano H : Role of IL-6 in Severe Inflammation. Am J Respir Crit Care Med. 2021.
	Inoue KI, Sagawa T, Takano H : COVID-19 and Coagulopathy. Am. J. Respir. Cel. Mol. Biol. 2021.
富安眞理	脳卒中後遺症のある独居高齢者を支える訪問看護師の判断プロセス、青木瞳,富安眞理,日本在宅看護学会誌,10巻1号,11-21,2021.
畑中純子	産業看護職のコンピテンシー尺度の内容妥当性の検証,河野啓子(4名),日本産業看護学会誌,8,P11-17,2021.
藤田景子	被虐待経験をもつ女性に対する妊娠期から育児期における助産師の関わり、中村岬,藤田景子、太田尚子(3名)、母性衛生,62巻4号,594-601,2022.
堀芽久美	「Is young-onset esophageal adenocarcinoma increasing in Japan? An analysis of population-based cancer registries」,Saito E(7名),Cancer Med ,11(5),P1347-1356,2022.
	「Burden of cancer attributable to modifiable factors in Japan in 2015」,Inoue M(15名),Glob Health Med,4(1名),P26-36,2022.
	「Burden of cancer attributable to air pollution in Japan in 2015」,Hori M(9名),GHM Open,1(2),P76-84,2021.
鈴木和香子	特別支援学校の看護師が大学に求める役割と機能,鈴木和香子,育療,第69号,11-18,2021.

濱井 妙子	Exploratory Study on the Current Situation About Providing Medical Information in “Easy Japanese”, ONO Naoko, Hamai Taeko, OKABE Junko, Educational Studies International Christian University Publications 1-A, 64, 63-78, 2022. (「やさしい日本語」による医療関連情報の提供の現状についての探索的調査,大野直子,濱井妙子,岡部純子(3名),国際基督教大学学報 1-A 国際基督教大学 『教育研究』,64,63-78,2022.)
加藤 京里	「排便パターン分類フローチャート」の臨床での有用性,菱沼 典子,加藤木 真史,野月 千春,酒井 礼子,丸山 朱美,平澤 ちよみ,久賀久美子,秋山 雅代,加藤 京里,縄 秀志,田中 美智子,矢野 理香,栗田 愛,塚越みどり(14名),日本看護技術学会誌,20 卷,68-78,2021.
前野 真由美	「静岡県・外国人のための無料健康相談と検診会における Covid-19 流行状況下の情報提供手段に関する検討」,前野真由美(5名),東海公衆衛生雑誌,第9巻第1号,2021.
三崎 健太郎	Biological response-enhancing activity with antigens in A549 cells exposed to representative polycyclic aromatic hydrocarbons. K. Misaki, H. Takano, H. Kanazawa and K. Inoue(4名),ACS Omega, 6(34), 22224-22232, 2021.
Hempstock W e n d y L e a n n e	「Functional assessment of intestinal tight junction barrier and ion permeability in native tissue by Ussing chamber technique」,Hempstock, W. (3名),Journal of Visual Experiments, 171, e62468, 2021.
倉本 直樹	Effectiveness of using near-infrared vein visualizers by nurses in promoting successful peripheral venous catheterization in patients receiving chemotherapy, Kuramoto, N., & Watanabe, Y.(2名). Journal of International Nursing Research, 1(1), e2021-0014.,2022.
高 木 静	産褥早期におけるエジンバラ産後うつ病質問票が高得点となるリスク因子の検討,鈴木 公基. 田村 圭浩. 高木 静(3名),母性衛生 ,62(4),666-672,2022.
大和田 裕美	妊婦健康診査場面において妊婦が開始する心配事の提示:妊婦と医師との相互行為に注目して,大和田裕美・白井千晶(2名),母性衛生 62 巻 1 号,135-143,2021.
松 裏 豊	Changes in cortical, cardiac, and respiratory activities in relation to spontaneous rhythmic jaw movements in ketamine - anesthetized guinea pigs, Hiroshi Yano, Yutaka Matsuura (10 名), European Journal of Oral Sciences, Vol.129 No.6 e12817, 2021.
栗田 真由美	高齢者福祉分野の保健師が委託型地域包括支援センターと協働で地域包括ケアに取り組む経験,栗田真由美(2名)地域看護学会誌,24(2),30-39,2021.

総説（翻訳を含む）

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
永谷幸子	慢性期の患者さんに必要なケアを考える！大塚さん(心不全)の例,永谷幸子(1名), プチナース,30,30-31,2021.
管原清子	急性期の患者さんに必要なケアを考える！丸山さん(胃がん)の例,管原清子(1名), プチナース,30,22-27,2021.
	慢性期の患者さんに必要なケアを考える！小野寺さん(慢性腎不全)の例,管原清子 (1名),プチナース,30,28-29,2021.
加藤京里	【個別性はここに出る!事例でわかる看護計画の立てかた】慢性期の患者さんに必要 なケアを考える! 関さん(2型糖尿病にてインスリンを導入)の例 ご家族を含めた指 導が必要な場合,加藤京里,プチナース,30 巻10号,34-35,2021.
池田麻左子	病気をもつ子どものピアサポート,池田麻左子(2名),小児看護,第44巻第6号,716- 722,2021.
	重症心身障がい児(者)のリハビリテーションと看護,池田麻左子,小児看護,第44巻第 8号 991-999,2021.

著書(翻訳を含む)

氏名	著者名、書名、発行所、発行年	単著・ 共著・ 編著・ 分担 執筆の 別	総頁数	執筆 頁数
山田 紋子	黒田裕子監 (43 名),看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版,学研メディカル秀潤社,2021.	共著	589	22
荒井 孝子	荒井孝子 (2 名) ,診察のためのアプローチ 日本語と英語による患者への声かけ,中外医学社,2021.	共著	82	82
林 みよ子	林みよ子編集(9 名) ,実習で出会う疾患の病期別看護ガイド,照林社,2021.	共著	132	24
篁 宗一	日本学校メンタルヘルス学会 第24 回大会総括,学校メンタルヘルス,Vol.24,No2,日本学校メンタルヘルス学会,2022.	共著	98-99	2
	学校メンタルヘルスリテラシー教育の実践と評価,学校メンタルヘルス,Vol.24,No2,日本学校メンタルヘルス学会,100-104,2022.	単著	100-104	5
畑 中 純子	下光輝一 (111 名) ,女性と健康の百科事典,丸善,2022.	共著	1658	5
中 川 有 加	中川有加(33 名),THE 分娩,メディカ出版,2021.	共著	327	65
榑 み の り	日本腎不全看護学会編(著者数 22 名),慢性腎臓病看護第6 版,医学書院,2021.	共著	278	7



### 教科書の執筆・作成

氏名	論文題名,著者名(著者総数),雑誌名,巻,始頁と終頁,発行年	単著・共著の別
堀 芽 久 美	菊池宏幸(16名),疫学/保健統計,メヂカルフレンド社,2021.	共著
山口みのり	山口みのり他(36名),2022年度版 准看護師試験問題集,医学書院,2021.	共著
鈴木千智	松田正己他(18名),標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動,医学書院,2021.	共著

### 紀要

氏名	論文題名,著者名(著者総数),雑誌名,巻,始頁と終頁,発行年
鈴木和香子	先天性疾患を抱える子どもの父親が体験した気持,中垣紀子・牧田彰一郎・鈴木和香子(3名),和洋女子大学紀要,62巻,225-235,2021.
膽 畑 敦 子	急性期病院に勤務する看護師を対象とした認知症高齢者への退院支援の実態,膽畑敦子,経営情報イノベーション研究,Vol.10,17-32,2021.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル,著者名(著者総数),冊子名,巻,始頁と終頁,発行年
太田尚子	悲しみのそばで改訂版、堀内成子、太田尚子、石井慶子、蛭田明子、千葉真希(5名)、大衛株式会社、1,25-26,29-31,2021
富安眞理	学生の臨床判断能力を伸ばすための手法と、臨床判断能力の育成に向けた到達目標、片山由加里、富安眞理、根岸まゆみ他(5名)、看護展望、47巻3号、17-23,2022.
篁宗一	オンラインで行う精神看護実習の事例検討による効果評価、近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、篁宗一(4名)、精神科看護、48(8)、62-70,2021.
畑中純子	「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス」書評、畑中純子、産業精神保健、29(4)、415,2021.
	「産業看護職の基礎教育のためのe-learningによる現任教育プログラムの開発」科学研究費補助金研究成果報告書、畑中純子(5名)、48,2022.
山口みのり	「事例でわかる看護計画の立てかた」慢性期の患者さんに必要なケアを考える!、山口みのり、プチナース、30(10)、照林社、32-33,2022.
	「essay-成長を見届ける大切さ-」、山口みのり、ラポール、No.10、メディカ出版、2022.
長澤利枝	オンラインで行う精神看護学演習の事例検討による効果評価、近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、篁宗一(4名)、精神科看護 Vol.48, No.8, 62-70, 2021.
	緑茶の芳香が学生の情緒面に与える影響-授業や実習での芳香体験を通して-近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、村方多鶴子、篁宗一(5名)、「USフォーラム 2021 静岡県立大学研究要旨集」p.243, 2021.
杉山眞澄	児童相談所の保健師のあり方に関する研究・子どもの虹情報研究センター研究報告書、中板育美(14名)、2021.
前野真由美	第23回外国人のための無料健康相談と検診会 検診会結果報告、前野真由美(3名)、「第23回外国人のための無料健康相談と検診会報告集」、7-8、2021.
	第23回外国人のための無料健康相談と検診会 検診会受診者Webアンケート集計結果、前野真由美(3名)、「第23回外国人のための無料健康相談と検診会報告集」、p9-10、2021.
	第23回外国人のための無料健康相談と検診会 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策-8言語の健康チェック表-、前野真由美、「第23回外国人のための無料健康相談と検診会報告集」、18-21、2021.
近藤美保	オンラインで行う精神看護実習の事例検討による効果評価、近藤美保、遠藤りら、長澤利枝、篁宗一(4名)、精神科看護、48(8)、62-70,2021.
	特集:「まったく身に覚えのない突然の理不尽なクレームに私、困惑・・・!それはSOSのサインかも」、近藤美保(1名)、精神科看護、48(9)、54-59,2021.

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル,著者名(著者総数),冊子名,巻,始頁と終頁,発行年
遠藤りら	オンラインで行う精神看護学実習の事例検討による効果評：近藤 美保, 遠藤 りら, 長澤 利枝, 篁 宗一,精神科看護(0910-5794)48巻8号,62-70,2021.
	【精神科訪問看護(Part2) こんなときにはどうしたら?精神科訪問看護の経験を共有します!】「訪問時にずっと妄想内容を話している利用者さんに困惑…」 「聴く」ことからスタートする：遠藤 りら.精神科看護 48巻9号,96-101,2021.
伊藤純子	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第10回) おもしろい健康教育のレシピ 対象者の心を満足させるおいしい指導案はいかが?,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(4), 324-327,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第11回) オンライン健康教育に挑戦しよう 新人が活躍できるチャンス到来,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(5), 420-425,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第11回) アイスブレイクパーティ! 会場の緊張をほぐす10のワザ,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(6), 510-514,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第13回) 健康教育の成功が7割決まる!,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(7), 594-597,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第14回) こっこつ「話トレ」で達人に近づこう,,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(8), 690-694,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第15回) 参加者の意欲をオンにする!,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(9), 756-759,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第16回) 知っているとかっこいい話題のワード. 保健師ジャーナル, 77(10), 830-834,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第17回) 意見交換タイムに火をつける! 参加者がアイデアを出しやすくするテクニック. 保健師ジャーナル, 77(11), 920-924,2021.
	「おも★けん!」 新任期でもできる!おもしろ健康教育のつくり方(第18回) アイデアのスイッチ 創造性を高める技術を学ぼう,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 保健師ジャーナル, 77(12), 1006-1010,2021.
「おも健」の世界へようこそ「理論編 vol.1」,伊藤純子, 高橋佐和子(2名), 健, 50(5), 41-55. 2021.	

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル,著者名(著者総数),冊子名,巻,始頁と終頁,発行年
伊藤純子	「おも健」の世界へようこそ「理論編 vol.2」,伊藤純子,高橋佐和子(2名),健,50(6),41-49. 2021.
	「おも健」の世界へようこそ「実践編 vol.3」,伊藤純子,高橋佐和子. 健,50(7),14-25,2021年.

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
富安真理	在宅医療・介護を支えるチームを創る 多職種協働へのチーム STEPPS の活用の工夫	第21回日本健康・栄養システム学会	20分	静岡市	2021/6/19
藤田景子	ドメスティック・バイオレンスと虐待の連鎖への予防・介入～DV家庭への地域での支援連携を模索する～	日本フォレンジック看護学会	90分	大阪(Web)	2021/8/28～9/6
鈴木和香子	ミニシンポジウム：小児期の入院時の遊びと生活～YouTuber のにゅーいんさんに聞く～	第14回 HPS 国際シンポジウム・研究大会	60分	静岡市	2022/3/19～27 (オンデマンド)

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
山田 紋子	令和4年度カリキュラム改正に伴う成人看護学領域における看護実践能力獲得に関する教育プログラムの検討	US フォーラム 2021	静岡市	2021/4
林 みよ子	新型コロナウイルス感染対策下で学習する学生の卒業時までには獲得すべき能力の達成を目指した成人看護学領域の教育に関する研究	US フォーラム 2021	静岡市	2021/4
荒井 孝子	子宮脱の整復およびペッサリー着脱の技術を獲得するための子宮脱モデルの開発	第53回 日本医学教育学会大会	栃木 (Web)	2021/7
	ドック健診の健常者から分析したeGFR低下にかかわる因子	第62回日本ドック学会学術大会	金沢 (Web)	2021/9
畑中 純子	産業看護職における臨床看護職との連携の意義	日本産業看護学会第10回学術集会	千葉	2021/11/1
前野 真由美	静岡県の地域住民による新型コロナウイルス感染症拡大予防のための「8言語の健康チェック表」の作成と公開	第35回日本国際保健医療学会東日本地方会	東京 (Web)	2021/6/5
福島 恭子	多言語対応産科クリニック利用妊婦の災害への備えと支援の検討	第20回日本母子看護学会学術集会	埼玉 (Web)	2021/7/4
	助産師が行ういのちの教育に関する文献検討-児童・生徒の学びに焦点をあてて-	第20回日本母子看護学会学術集会	埼玉 (Web)	2021/7/4
佐藤 瑠美	コロナ禍で広がる社会の分断についてージェンダー格差と多様性を包摂する地域づくりー	第5回 社会デザイン学会	東京 (Web)	2021/12/5
加納 江理	A市における訪問看護を提供する医療機関と訪問看護ステーションの連携活動の取り組み	第12回 せいらい看護学会	静岡県	2021/9/18

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
三崎健太郎	肺上皮細胞における多環芳香族炭化水素の抗原存在下炎症性サイトカイン誘導への増強作用	日本大気環境学会 第62回大会	Web	2021/9/15
	肺上皮細胞において炎症性サイトカインを産生する多環芳香族化合物	日本環境変異原ゲノム学会第50回大会	横須賀市 および Web	2021/11/1
Hempstock W e n d y L e a n n e	The effect of claudin-15 deletion on paracellular Na <sup>+</sup> transport in the cecum and large intestine	The51st NIPS International Symposium: Frontiers in Epithelial Cell Biology	Web	2021/12/1
	The effect of claudin-15 deletion on digestion and energy metabolism	第99回日本生理学会大会	仙台市 (ハイブリッド)	2022/3/1
大和田裕美	妊娠・出産する女性と助産師との関係の成り立ち—A 助産所での調査から—	第47回日本保健医療社会学会大会	Web	2021/5/15
丸山始美	ターミナル期にある小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩	日本看護倫理学会第14回年次大会	Web	2021/5/29 オンデマンド配信期間 (5/29-6/30)
膽畑敦子	認知症高齢者グループホームにおける訪問看護・介護における統合的ケアの実態	第12回せいい看護学会	浜松市	2021/9/18
伊藤純子	未就学児の保護者を対象としたヘルスコミュニケーション媒体の開発	第29回日本健康教育学会	青森県 (Web)	2021/9

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
太田尚子	The meaningfulness of the support group where parents who have terminated pregnancies can share their experiences: Activity report of a Japanese support group.	32nd ICM Virtual Triennial Congress	A. Hiruta, K. Ishii, K. Hoshino, N. Ota, M. Kitazono, Y. Yaguchi, S. Horiuchi	web	2021/6/2
山田紋子	新型コロナ感染対策下で学習する学生の卒業時まで獲得すべき能力の達成を目指した成人看護学領域の教育に関する研究	US フォーラム 2021	林 みよ子	静岡市	2021/4
荒井孝子	MCI から皮質下血管性認知症 (SICD) にいたる大脳白質病変のリスク解明	第 50 回 日本総合健診医学会	天野隆弘	仙台市 (Web)	2022/1
富安真理	認知症グループホームにおける訪問看護・介護による統合的ケアの実態	第12回せいい看護学会	膽畑敦子	浜松市	2021/9/17
	認知症高齢者に対するスコーピングレビュー	第11回日本在宅看護学会	木村綾	北海道	2021/11/12
	高齢糖尿病療養者の食事療法への訪問看護師による支援	第12回日本在宅看護学会	佐野晃子	北海道	2021/11/12
山下早苗	ターミナル期にある小児がんの子ども意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩	日本看護倫理学会第14回年次大会	丸山始美, 山下早苗, 篁宗一	Web	2021/5/29 オンデマンド配信期間 (5/29-6/30)
畑中純子	産業看護職と臨床看護職との連携	日本産業看護学会第10回学術集会	高田真澄	千葉県	2021/11
	担当社員が入院中に生活習慣保健指導を臨床看護職から受ける必要性	日本産業看護学会第10回学術集会	加藤睦美	千葉県	2021/11
藤田景子	就労高年齢初産婦の復職と子育ての両立に向けた夫婦間での思	第36回 日本助産学会	下位悠実	大阪府 (Web)	2022/3/19

## 共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	いと調整内容				
	初回新生児訪問における子ども虐待の早期発見のための看護職の観察の視点	第36回 日本助産学会	深見栞	大阪府 (Web)	2022/3/20
永谷幸子	急性期を脱した心不全患者の全身清拭による皮膚の清浄度	第19回日本 看護技術学会	中村友美, 管原清子	愛知県 (Web)	2021/10/10
	ハンドマッサージのリラクゼーション効果	第19回日本 看護技術学会	久保田真由, 管原清子	愛知県 (web)	2021/10/10
	看護学部4年生のコミュニケーション・スキルに関する実態調査	第19回日本 看護技術学会	瀧井麻琴, 管原清子	愛知県 (Web)	2021/10/10
成瀬早苗	全国の一般病棟看護師を対象とした身体拘束回避の転倒予防ケア行動への影響要因	第8回日本 転倒予防学会	牧野真弓	愛知県 (Web)	2021/10/24
杉山眞澄	児童相談所における保健師の活動内容—保健師へのインタビュー調査から—	第27回日本 子ども虐待防 止学会	大塚陽子	横浜市	2021/12/05
	児童相談所における児童福祉職の保健師の活動への認識—児童福祉職へのインタビュー調査から—	第27回日本 子ども虐待防 止学会	上野昌江	横浜市	2021/12/05
管原清子	急性期を脱した心不全患者の全身清拭による皮膚の清浄度	第19回日本 看護技術学会	中村友美, 永谷幸子	愛知県 (Web)	2021/10/10
	ハンドマッサージのリラクゼーション効果	第19回日本 看護技術学会	久保田真由, 永谷幸子	愛知県 (Web)	2021/10/10
	看護学部4年生のコミュニケーション・スキルに関する実態調査	第19回日本 看護技術学会	瀧井麻琴, 永谷幸子	愛知県 (Web)	2021/10/10
加藤京里	入院患者の排便パターンと看護師のアセスメントの実態—排便排尿記録用紙の導入とフローチャートによる分類—	日本看護技術 学会 第19回学術集 会	宮永喜美子, 鈴木美幸, 丸山朱美, 野月千春, 加藤木真史	愛知県 (web)	2021/10/9



## 共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
福島 恭子	子宮脱の整復およびペッサリー着脱の技術を獲得するための子宮脱モデルの開発	第53回日本医学教育学会大会	荒井孝子	栃木県 (Web)	2021/7/30
倉本 直樹	末梢静脈穿刺を容易にする駆血方法の評価 -血管断面積の比較	つくば医工連携フォーラム2022	山下樹里	Web	2022/1/22
伊藤 純子	Development of a health education program targeting parents with low motivation for learning	6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing	Sawako Takahashi	大阪府 (ハイブリッド)	2022/1/8

## 受賞

氏名	賞名	団体名
池田麻左子	静岡県立大学 学長表彰	静岡県公立大学法人 静岡県立大学
	静岡県立こども病院 業務改善運動推進制度 優秀賞	地方独立行政法人 静岡県立病院 機構 静岡県立こども病院

## 2) 外部資金受け入れ

外部資金：(A)文部科学省科学研究費,(B)他の省庁,地方公共団体研究費,  
(C)財団研究費,(D)受託又は委託研究費,(E) 奨学寄付金

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額 単位:千円	代表分担 の別
太田尚子	(A)	基盤研究(C)	チームリーダーのためのペリネイタル・ロス 看護者研修プログラムの開発	800	代表
	(A)	基盤研究(C)	悲嘆作業と新しい命を迎えるチャレンジ周 産期喪失後の2つの課題への適応支援	50	分担
井上健一郎	(B)	CREST	環境中微粒子の体内,細胞内動態,生体・免疫 応答機序の解明と外因的,内因的健康影響決 定要因,分子の同定	1,040	分担
荒井孝子	(A)	基盤研究(C)	推算 GFR 分析による慢性腎臓病 (CKD) 進 展予防のための定量的評価スケールの開発	1,300	代表
田中範佳	(A)	若手研究	術前の呼吸・循環動態安定化に向けた次世 代デバイスを用いた実証研究	3,380	代表
	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把 握できるセンサの開発と看護ケアの検討	3,380	分担
	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠 隔測定できるデバイスの開発と有用性の検 討	2,860	分担
林みよ子	(A)	基盤研究(C)	脳血管疾患患者の早期在宅移行を支える包括 的継続的シームレス支援に関する研究	780	代表
富安真理	(A)	基盤研究(C)	パーキンソン病高齢者の家族介護者を中心 とした統合的ケア提供モデルの開発	81	代表
	(A)	基盤研究(C)	地域特性に応じた訪問看護事業所における アウトカムマネジメントモデルの開発	520	分担
篁宗一	(A)	基盤研究(B)	SNS を活用した大学生のメンタルヘルス・ リテラシー促進および支援プログラムの開 発	2,200	代表
	(A)	基盤研究(C)	量的看護研究における統計的検定の検出力 に関する研究	150	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額 単位:千円	代表分担 の別
山下早苗	(A)	基盤研究(C)	小児を対象とする看護師への看護倫理教育プログラム	500	代表
畑中純子	(A)	基盤研究(C)	産業看護職の基礎教育のための e-learning による現任教育プログラムの開発	1,040	代表
藤田景子	(A)	基盤研究 C	妊娠初期から乳幼児期まで切れ目なく DV 被害母子を支援するモデルの開発に関する研究	910	代表
	(A)	基盤研究 B	SANE-J(日本版性暴力被害者支援看護師)教育プログラムの開発	50	分担
	(A)	基盤研究 C	薬害の社会的過程の分析——Biological Citizenship の観点から	350	分担
堀芽久美	(A)	若手研究	医療資源へのアクセシビリティ格差が与えるがんリスクおよび予後の地域差に関する研究	631	代表
	(A)	挑戦的研究 (萌芽)	乳がんサバイバーの行動変容と患者ケアの効果予測	69	分担
	(A)	基盤研究(C)	がん関連症状へのケアに関する科学的根拠に基づいた実践の促進プログラムの開発	22	分担
	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	0	分担
	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	0	分担
	(A)	基盤研究(B)	終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエビデンスの基盤形成の確立	50	分担
	(B)	厚生労働科学研究費補助金：がん対策推進総合研究事業	がん対策の年齢調整死亡率・罹患率に及ぼす影響に関する研究	12,000	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額 単位:千円	代表分担 の別
	(B)	厚生労働科学 研究費補助 金：がん対策 推進総合研究 事業	国際比較可能ながん登録データの精度管理お よび他の統計を併用したがん対策への効果的 活用の研究	14,950	分担
	(B)	国立がん研究 センター研究 開発費	2021-A-20 がんの地理情報の総合的活用に関 する研究	10,800	分担
山口みのり	(A)	基盤研究(C)	対話的リフレクションを契機としたキャリ ア中期看護職の成長に関する研究	4,290	分担
	(A)	基盤研究(C)	看護実践能力の向上に向けた技術習得過程 のモデル化と教育プログラムの構築	4,680	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予 防のための教育プログラムの開発	1,170	分担
永谷幸子	(A)	基盤研究(C)	入院する高齢者の認知機能低下を予防する ための看護介入ー足関節運動を用いてー	1,170	代表
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予 防のための教育プログラムの開発	1,300	分担
杉山眞澄	(A)	基盤研究(C)	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレ ーション型能力育成プログラム開発	300	分担
	(A)	基盤研究(C)	ニュータウン住民の互助を促進する地区 組織・住民組織活動モデルの開発 (1年延長)	65	分担
濱井妙子	(A)	基盤研究(C)	外国人患者・医療者・通訳者間におけるリス ク・コミュニケーションに関する実証研究		代表
	(A)	基盤研究(C)	多言語社会に対応したやさしい日本語を用い た医療通訳養成教材の研究と開発	100	分担
管原清子	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予 防のための教育プログラムの開発	1,300	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額 単位:千円	代表分担 の別
	(A)	(B)			
	(A)	基盤研究(C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	100	分担
加藤京里	(A)	基盤研究(C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	780	代表
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	10	分担
前野真由美	(A)	基盤研究(C)	在住外国人の終末期ケアの在り方に関する研究	2,990	代表
三崎健太郎	(A)	基盤研究(C)	含酸素芳香族炭化水素類 (oxy-PAHs) に対する統合的大気環境リスク評価	4,420	代表
倉本直樹	(A)	若手研究	末梢静脈穿刺において血管怒張を効果的に促す駆血技術の検討	1,100	代表
	(B)	受託研究費	末梢静脈穿刺を容易にする駆血方法の評価	266	分担
中岡正昭	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	2,860	代表
鈴木郁美	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	1,122	代表
大和田裕美	(A)	若手研究	助産ケアにおける女性と助産師との相互行為に関する研究	1,040	代表
膽畑敦子	(A)	基盤研究(C)	パーキンソン病高齢者の家族介護者を中心とした統合的ケア提供モデルの開発	81	分担
近藤美保	(A)	基盤研究(B)	SNS を活用した大学生のメンタルヘルス・リテラシー促進および支援プログラムの開発		分担
栗田真由美	(A)	研究活動スタート支援	専門職連携における意思決定水準を高める高齢者虐待支援の指標開発	1,150	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	受領総額 単位:千円	代表分担 の別
伊藤純子	(A)	基盤研究(C)	超高齢化ニュータウンにおける主体的な予防活動の動機づけ支援看護介入プログラム構築	1,200	代表
	(A)	基盤研究(C)	「障害の社会モデル」を重視したリハビリテーションのための内省型研修プログラム開発	20	分担
	(A)	基盤研究(C)	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレーション型能力育成プログラム開発	200	分担

3) 令和3年度学部研究推進費等

令和3年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分 担の別
山田 紋子	令和4年度カリキュラム改正に伴う看護実践能力獲得に関する臨地実習における教授法方法の検討	147	代表
	新型コロナウイルス感染症対策下での看護実践能力獲得に向けた看護学教育に関する実践的研究	370	分担
	臨床判断能力向上におけるシミュレーション教育プログラムに関する検討	474	分担
林 みよ子	新型コロナウイルス感染症対策下での看護実践能力獲得に向けた看護学教育に関する実践研究	370	代表
	令和4年度カリキュラム改正に伴う看護実践能力獲得に関する臨地実習における教授方法の検討	147	分担
荒井 孝子	子宮脱整復・ペッサリー自己着脱技術を獲得するための”子宮脱モデル”および患者教育プログラムの開発	320	代表
富安 眞理	トルバプタンを導入する常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)患者のセルフマネジメントに関する文献検討	700	分担
	在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況確認のための技術試験の検討	136	分担
	地域住民と地域の看護者との交流を生かした看護者基礎教育の推進	1,000	代表
山下 早苗	コロナ禍にある小児看護学領域における学内実習の評価と静岡県立こども病院看護部との連携	294	代表
山口みのり	明治期から現在における看護と看護教育の歴史の変遷－生活行動援助の視点から－	131	代表
	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果－COVID-19による臨地実習の補完学修として－	518	分担
	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	507	分担
永谷 幸子	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	463	代表
	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果-COVID-19による臨地実習の補完学修として-	518	分担
	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	507	分担



令和3年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分 担の別
成瀬 早苗	看護学生の高齢者イメージと高齢観の変化をとらえた老年看護学教育の検討	700	代表
	新型コロナウイルス感染拡大による長期的な面会制限下にいる介護保険施設高齢者の心的における長期的な影響に関する実態調査	700	分担
管原 清子	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果-COVID-19による臨地実習の補完学修として-	518	代表
	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	507	分担
	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	463	分担
加藤 京里	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	507	代表
	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果-COVID-19による臨地実習の補完学修として-	518	分担
	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	463	分担
加納 江理	在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況確認のための技術試験の検討	136	代表
三崎 健太郎	多環芳香族化合物によるサイトカイン産生増強活性機構の追跡	326	代表
Hempstock W e n d y L e a n n e	The effect of diesel exhaust particles on lung epithelial tight junction proteins	700	代表
倉本 直樹	訪問看護師が実施する末梢静脈留置カテーテル穿刺に関する研究	457	代表
	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果-COVID-19による臨地実習の補完学修として-	518	分担
	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	507	分担
	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	458	分担
中岡 正昭	座位保持中の背面圧と座面圧による換気状態を測定できるセンサの開発と有用性の検討	188	代表

令和3年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分 担の別
飯塚真樹	COVID-19 感染症流行下にて介護老人保健施設の看護師が直面する高齢者看護の問題に関する実態調査	189	代表
宮澤典子	新型コロナウイルス感染拡大による長期的な面会制限下にいる介護老健保健施設高齢者の心的における長期的な影響に関する実態調査	700	代表
高木 静	コロナ禍における「妊娠中夫婦向け産後うつ予防プログラム」の効果の検証	114	代表
大和田裕美	パートナーが妊娠期にある父親に対する助産師による育児支援プログラムの検討	154	代表
膽畑 敦子	在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況確認のための技術試験の検討	136	分担
池田麻左子	COVID-19(コロナ)の感染拡大による重症心身障がい児の看護実践の現状と課題	286	代表
	重症心身障がい児を対象とする看護実践能力の教育プログラム開発	263	代表
丸山始美	ターミナル期にある小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩の意味づけに関する質的研究	660	代表
榊 みのり	トルバプタンを導入する常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)患者のセルフマネジメントに関する文献検討	700	代表
	在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況確認のための技術試験の検討	136	分担
近藤美保	地域で暮らす精神疾患女性患者を対象とした化粧アプリの開発	177	代表
遠藤りら	大学教員のワーク・エンゲージメントを高める職場環境改善へのアプローチ	175	代表

令和3年度COC事業地域を志向した研究

氏名	テーマ	受領総額 (単位:千円)	代表分 担の別
荒井孝子	県立大学から発信する女性の健康を支える健康プロジェクト	128	代表
富安眞理	認知症高齢者とその家族を支援する訪問看護師を対象としたコミュニケーション学習の実態調査	193	分担
永谷幸子	不妊治療中の女性および親世代に向けた必要な支援を検討する試み	25	分担
中川有加	不妊治療中の女性および親世代に向けた必要な支援を検討する試み	25	代表
前野真由美	地域を志向した研究「新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする医療通訳者および外国人支援者向け勉強会の開催」	80	代表
膽畑敦子	認知症高齢者とその家族を支援する訪問看護師を対象としたコミュニケーション学習の実態調査	193	代表

国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究 期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
林 み よ 子	2021- 2022	救急・集中領域における看護師の家族看護 アセスメントと実践	泊祐子 (関西福祉大学) 堀理江 (関西福祉大学)	研 究 計 画, デー タ収集・ 分析, 論 文執筆
	2021- 2022	壮年期にある初発軽症脳梗塞患者の退院 後の再発予防行動の取り組みプロセス	古市想 (静岡赤十字病院) 梶原聡子 (静岡赤十字病院)	研 究 計 画, デー タ収集・ 分析, 発 表準備
加 納 江 理	2017- 2022	医療療養病床をもつ病院の地域連携室看 護師における在宅療養移行支援の現状と 課題	豊島由樹子 (聖隷クリストファ ー大学)	デ ー タ 分析等
三 崎 健 太 郎	2011-	AhR を介した多環芳香族化合物の毒性に 対する評価研究	高村岳樹 (神奈川工科大学)	PACs に よる 毒性パ ターン 評価
倉 本 直 樹	2022	目視できない末梢静脈血管路を選定する 熟練看護師の触診技術の解明	渡邊順子 (静岡県立大学)	研 究 計 画 の 立 案, 実施

#### 4) 海外研修活動

氏名	事業の名称または目的	研修期間（日数）	研修先
なし			

#### 5) その他特記事項

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
荒井孝子	看護師特定行為研修 厚生労働省への変更申請	2021/4～2022/3	
	看護師特定行為研修 厚生労働省への予算申請, 執行, 報告書作成	2021/4～2022/3	
	文部科学省ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の公募へ応募書類の作成とマネジメント	2021/12～2022/2	
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会の24回大会のまとめ	2022年度	
山口みのり	看護師国家試験模試問題執筆	2021/4～2022/3	
永谷幸子	静岡社会健康医学大学院大学 客員研究員	2021/11～2022/3	
成瀬早苗	静岡社会健康医学大学院大学 社会医学研究センター 客員研究員, 静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループとして, 静岡コホート研究「かもけん! 事業」に参加し, 調査を実施した	2021/11/27～ 2022/3/31	
杉山真澄	一般社団法人 保健師による親子ヘルス&サポート推進協会・理事	2022/03/05～	
安藤継子	集会：全国の児童相談所に勤務する保健師がリモートで集まり, 活動報告, 最新情報講演会, 情報交換を行った。	2022/2/5	杉山准教授の指導の下, 領域教員の協力を得て実施した

## VIII.学部・研究科としての社会貢献

### 1. 国・地方自治体における活動

氏名	従事先	従事する職名	任期
太田 尚子	静岡市健康文化交流館「来・て・こ」	静岡市健康文化交流館運営委員会委員	2021/4/1～ 2022/3/31
	茨城県立医療大学	大学院保健医療科学研究科 非常勤講師 「看護倫理」	2021/4/1～ 2022/3/31
山田 紋子	静岡県立総合病院	静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会 外部委員	2020/4/1～ 2022/3/31
	静岡県立総合病院	看護部倫理研究倫理審査会 外部委員	2021/4/1～ 2022/3/31
富安 真理	静岡市	在宅医療・介護連携協議会委員	2020/4～2021/3
	静岡市	健康福祉審議会委員	2019/4～2022/3
	厚生労働省	東海北陸地方社会保険医療協議会委員	2019/4～2022/3
篁 宗一	静岡市	認知症対策推進協議会会長	2017/04～ 2022/3
	静岡市	自殺対策推進協議会会長	2017/04～ 2022/3
	静岡市	精神医療審査会委員	2017/04～ 2022/3
	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	2018/04～ 2022/3
山下 早苗	山梨県立大学大学院 看護学研究科	非常勤講師	
畑中 純子	島田市	健康づくり推進協議会委員	2021/4～2022/3
	飯田女子短期大学	非常勤講師	2021/4～2022/3
藤田 景子	静岡市	男女共同参画審議委員	2017/6～
	藤枝市	子どもの生命を守るための思春期講座開発事業アドバイザー	2021/6～

氏名	従事先	従事する職名	任期
堀 芽 久 美	国立がん研究センター	外来研究委員	2021/4/1/～ 2022/3/31
	静岡社会健康医学大学院大学	客員研究員	2021/10/1～ 2022/3/31
山口みのり	放送大学	客員准教授	2021/4～2022/3
鈴木和香子	静岡市 医療的ケア児等支援協議会	委員	2021/6～2023/5
	静岡県立看護専門学校	非常勤講師	2021/6
濱井 妙 子	沼津市	沼津市開発審査会委員	2021/11/1～ 2023/10/31
管 原 清 子	静岡市立静岡病院	地域医療支援委員会 委員	2021/4～2022/3
	静岡市立清水病院	地域医療支援委員会 委員	2021/4～2022/3
	静岡市立清水看護専門学校	教育課程編成会議 委員	2021/4～2022/3
杉 山 眞 澄	静岡県・障害者福祉課	静岡県発達障害者支援助地域協議会・委員	2020/05/01～ 2022/03/31
	静岡県立看護専門学校	非常勤講師「生活科学」,「基礎看護学概論」	2021/07/01～ 2021/12/27
	静岡市	静岡市保健所運営協議会・委員	2020/07/01～ 2022/06/30
	静岡県国民健康保険団体連合会	保健事業支援・評価委員会・委員	2020/09/01～ 2022/08/31
	組合立静岡県中部看護専門学校	教育課程編成委員会・委員	2021/04/01～ 2022/03/31
永 谷 実 穂	焼津市	介護保険審査委員	2021/4～2023/3
	聖隷クリストファー大学 助産学専攻科	ゲストスピーカー	2021/10/8
佐 藤 瑠 美	静岡市	研修講師他	2021/4/1～ 2022/3/31
加 納 江 理	浜松市	介護認定審査会審査委員	2021/4～2023/3
飯 塚 真 樹	社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園・ 久能の里	第三者委員	2020/4～2022/3

氏名	従事先	従事する職名	任期
池田麻左子	静岡県立こども病院	嘱託看護師	2021/4/1～ 2022/3/31
	岐阜県立大学 大学院	非常勤講師	2021/4/1～9/30
膽畑敦子	静岡県新卒訪問看護師育成委員会	委員会委員	2021/4～2023/3
近藤美保	静岡市支援センターみらい	運営委員	2021/4～2022/3
遠藤りら	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	2021/4～2022/3
栗田真由美	静岡県	重層的相談支援体制構築事業アドバイザー	2021/4～
伊藤純子	順天堂大学保健医療学部	非常勤講師	2021/12



## 2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
太田尚子	一般社団法人 日本助産学会	専任査読者	2021/4/1～ 2023/3/31
	一般社団法人 日本助産学会	代議員	2020/3/31～2022/3
	静岡県母性衛生学会	副議長、理事	2020/4～2022/3
	一般社団法人 日本看護系大学協議会	社員	2019/4/1～ 2022/3/31
	日本ペリネイタル・ロス研究会	代表	2009/4～2022/3/31
	聖路加国際大学「天使の保護者ルカの会」	運営委員	2004/9～2022/3
山田紋子	日本看護診断学会	理事, 専任査読委員	2019/7～2022/7
	日本赤十字看護学会	編集委員	2018/10～2021/7
林みよ子	日本クリティカルケア看護学会	理事, 専任査読委員	2021/6～2023/5
	日本救急看護学会	評議員, 専任査読委員	2021/10～2023/9
	日本救急看護学会	倫理委員	2019/10～2021/9
	日本救急看護学会	編集委員	2019/10～2021/9
	日本看護研究学会	専任査読委員	2020/4～2022/3
	日本赤十字看護学会	専任査読委員	2020/6～2022/5
井上健一郎	日本臨床環境医学会	評議員	2021/4/1～ 2022/3/31
	日本エンドトキシン・自然免疫学研究会	理事	2021/4/1～ 2022/3/31
	日本 Schock 学会	評議員	2021/4/1～ 2022/3/31
田中範佳	The 33th International Nursing Research Congress	学会査読委員	2021/4～2022/3
	Creating Healthy Work Environments 2022	学会査読委員	2021/4～2022/3

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	助成金査読委員	2021/4～2022/3
富安眞理	せいれい看護学会	評議員	2019/9～2021/9
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会	理事	2020/4～2022/3
畑中純子	日本産業看護学会	副理事長	2021/4～2024/3
	日本産業衛生学会	編集委員会委員	2020/9～2022/2
	静岡県保健師会	参与	2020/4～
藤田景子	日本フォレンジック看護学会	理事	2014/4～2021/6
山口みのり	日本看護学教育学会教育 活動委員会	委員	2021/4～2022/3
	日本看護研究学会	査読委員	2021/4～2022/3
	第19回日本看護技術学会 学術集会	企画委員	2021/4～2022/3
	第33回日本医学看護学教育 学会	企画委員	2021/12～2022/3
永谷幸子	日本看護医療学会	事務局員	2020～2022
中川有加	日本助産学会	専任査読委員	2021/4～2023/4
鈴木和香子	静岡県小児保健学会	監事・事務局	2018～
	日本小児保健協会	代議員	2021/4～2023/3
	静岡県専任教員養成講習 運営委員会	委員	2020/8～2022/3
	リレー・フォー・ライフ ジャパン静岡	委員	2012～
杉山眞澄	東海公衆衛生学会	評議員	2021/04/01～ 2024/03/31
	静岡県看護協会	広報委員	2021/04/01～ 2024/03/31
鈴木千智	日本健康福祉政策学会	理事	2020/4～2023/3
	日本看護倫理学会	第15回年次大会企画委員	2021/10～2022/10
濱井妙子	日本健康学会	評議員	2016/1～
	日本公衆衛生学会	公衆衛生学会認定専門家	2011/1～2026/3

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
濱井 妙子	日本医療通訳学会	運営委員	2021/10/1～
加藤 京里	静岡県看護協会	学術研究推進委員	2020～2025
	一般社団法人日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会 温罨法班	2014/4～
前野 真由美	外国人のための無料健康相談と検診会	実行委員	2021 /4～2022/3
福島 恭子	日本助産診断実践学会	理事	2020/4～2022/3
永谷 実穂	一般社団法人 FUmihoriguchi ウィメンズヘルス研究所	幹事	2020/6～2022/4
加納 江理	日本看護学会学術集会	発表抄録査読委員	2021/10～12
Hempstock W e n d y L e a n n e	「Bio Protocol」	論文の査読者	2012/11～
池田 麻左子	せいらい看護学会	評議委員	2019/9/14～2022/9
榑 みのり	日本腎不全看護学会	理事・倫理委員会委員長	2021/4～2021/10
	日本腎不全看護学会	専任査読者	2021/4～2022/3
栗田 真由美	中部 M-GTA 研究会	事務局員	2021/ 4 ～

### 3. 学会・シンポジウム等の主催

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
太田尚子	第33回静岡県母性衛生学会学術集会	委員	2021/11/28	静岡市	44
山下早苗	日本看護倫理学会第15回年次大会	企画委員	2022/5/28・ 29	沼津市	1500
山口みのり	日本看護学教育学会学術集会理事会企画	委員	2021/9/1	オンデマンド	300
	日本看護学教育学会 ICT 活用研修会	委員	2022/1/9	オンライン	100
	日本看護学教育学会臨地実習指導研修会	委員	2022/3/6	オンライン	50
鈴木和香子	第46回静岡県小児保健学会	委員・事務局	2021/11/28	オンライン	68
	HPS 第14回国際シンポジウム	委員	2022/3/1	オンライン	300
杉山眞澄	第3回 全国児童相談所に働く保健師のつどい	主催者	2022/2/5	静岡市 (Web)	100
加藤京里	第10回静岡県看護学会	委員	2022/1/15	静岡市 (ハイブリッド)	176
大和田裕美	第47回日本保健医療社会学会大会	大会サポーター	2021/5/15・ 16	Web	234

### 4. 雑誌編集関連委員

氏名	雑誌名	役職名
山田紋子	日本赤十字看護学会誌	委員
井上健一郎	Journal of Environmental & Analytical Toxicology	委員
田中範佳	Virginia Henderson Global Nursing e-Repository, Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	委員
	Journal of Perioperative Practice	委員
林みよ子	日本救急看護学会雑誌	委員長/ 委員

氏名	雑誌名	役職名
富安真理	日本在宅看護学会	委員
	日本看護科学学会	委員
	日本難病看護学会	委員
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会	委員
山下早苗	看護科学研究	編集委員
畑中純子	産業保健と看護	委員
前野真由美	第23回外国人のための無料健康相談と検診会報告集	委員
三崎健太郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	Guest Editor
Hempstock W e n d y L e a n n e	Physiology News	編集委員
榊みのり	日本腎不全看護学会誌	委員

## 5. 雑誌の査読

氏名	雑誌名	本数
太田尚子	日本助産学会誌	1
林みよ子	日本看護研究学会誌	2
	日本クリティカルケア看護学会誌	3
	日本赤十字看護学会誌	2
	日本救急看護学会雑誌	2
井上健一郎	Drug Delivery	1
田中範佳	Journal of Perioperative Practice	7
	Biological Research for Nursing	1
富安眞理	日本在宅看護学会	1
	日本看護科学学会	1
	日本難病看護学会	1
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会誌	12
	日本公衆衛生学会誌	3
山下早苗	日本看護倫理学会誌	2
畑中純子	日本産業看護学会	1
藤田景子	日本フォレンジック看護学会	1
堀芽久美	Journal of Epidemiology	1
	European Geriatric Medicine	1
山口みのり	日本看護研究学会	1
永谷幸子	日本看護医療学会	1
中川有加	日本助産学会誌	2
濱井妙子	日本健康学会	1
加藤京里	第10回 静岡県看護学会 抄録集	4
福島恭子	日本母子看護学会誌	1
三崎健太郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	2
	Antioxidants	1
	Toxics	2

氏名	雑誌名	本数
Hempstock Wendy Leanne	Bio Protocol	1
榊 みのり	高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法 conservative kidney management (CKM) の考え方と実践	1
	Renal Replacement Therapy	1

## 6. 専門領域の特別講演,セミナー講師,パネラー等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
太田 尚子	助産師クリニカルラダーレベルⅢステップアップ研修：周産期領域での倫理的課題	公益社団法人静岡県看護協会	静岡市	2021/7/10
	周産期に子どもを亡くした家族のケア	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター	東京（対面とオンラインのハイブリッド）	2021/10/19
	令和3年度母子保健指導者研修会「流産・死産・乳児死を経験している方への支援」	静岡県健康福祉部こども家庭課母子保健班	静岡市（Web）	2022/1/18
山田 紋子	看護教育方法論 （研究方法・文献検索・クリティーク）	静岡県看護協会	静岡市	2021/6/26, 7/3,10,24
林 みよ子	理論を活用した看護実践	奈良県看護協会	Web	2021/08/02
	看護研究	静岡県立総合病院	静岡市	2021/07/15
	自部署スタッフの力を引き出すスキルを学ぶ	静岡県立病院機構 3 病院師長研修	Web	2021/09/02
荒井 孝子	看護師特定行為研修指導者講習会講師	公益社団法人有隣厚生会 富士病院	御殿場市（Web）	2021/9
	看護師特定行為研修指導者講習会講師	公益社団法人有隣厚生会 富士病院	御殿場市（Web）	2022/2
	ヘルスアセスメント研修会	医療法人宝徳会 池田の街	静岡市	2021/12
畑中 純子	地域診断と PDCA （3月3日は中止となり書面にてコメントした）	静岡県中部健康福祉センター	藤枝市	2021/12/7
	保健指導の基本	愛知産業保健総合支援センター	Web	2022/2



氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
藤田 景子	生まれてきた大切な私たちの命（生）と性を考える	東都大学	沼津市	2021/7
	リプロダクティブヘルス・ライツの視点から考える女性支援～DV や性暴力被害者等被害を受けた方への支援を行うために～	静岡県女性相談センター	Web	2021/11
	令和3年度神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム～周産期に見逃さないで！ドメスティック・バイオレンス～DV・子ども虐待にどう取り組むか？～	神戸大学	Web	2022/2
	令和3年度妊産婦及び母子支援ネットワーク会議：地域の妊産婦や母子及びその家族への切れ目ない支援を考える～多職種でどう連携し協働できるのか～	静岡県中部健康福祉センター	島田市	2022/3
山口みのり	看護における歴史研究	東京都立大学	Web	2021/12/19
	今さら聞けない OJT と off-JT の活用の仕方	戸田中央医科グループ看護局	Web	2021/2/13
鈴木和香子	令和3年度 第1回特別支援学校看護師研修	静岡県教育委員会	Web	2021/4
	令和3年度 第3回特別支援学校看護師研修	静岡県教育委員会	Web	2022/3/22
長澤利枝	静岡県専任教員養成講習会： 専門領域別看護論演習（精神看護学）	公益財団法人 静岡県看護協会	静岡市	2021/10～ 2021/12
杉山 眞澄	いま求められる児童相談所の保健師（シンポジウム）	日本子ども虐待防止学会	横浜市	2021/2/4
	賀茂地域健康福祉研究発表会	静岡県賀茂健康福祉センター	下田市 (Web)	2022/1/13
	賀茂健康福祉センター管内新任期職員研修	静岡県賀茂健康福祉センター	下田市 (Web)	2022/2/2
鈴木千智	静岡県専任教員養成講習会 看護教育課程論（保健師課程）	静岡県看護協会	静岡市	2021/7/28
	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 乳がん看護概論	静岡県立静岡がんセンター	Web	2021/8/25

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
濱井 妙子	医療通訳者の倫理・心得	令和3年度 医療通訳者専門 (フォローアップ) 講座	Web	2021/9/4, 11/13
菅原 清子	今こそコミュニケーションを見直そう	静岡県看護協会	静岡市	2021/11
加藤 京里	今こそコミュニケーションを見直そう ～聴く・見る・伝える～	静岡県看護協会	静岡市	2021/11/13
	技術研究成果検討委員会 全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めよう：エビデンスに基づく排泄援助の技」温罨法の安全性と効果について	一般社団法人 日本看護技術学会	Web	2022/2/5
福島 恭子	助産師のキャリア形成について	静岡県看護協会	静岡市	2022/1/21
佐藤 瑠美	令和3年度地区診断（新任期1年目） 研修会	静岡市	静岡市	2022/7/30
加納 江理	静岡県看護協会 認定看護管理者養成研修 セカンドレベル グループワーク講師	静岡県看護協会	静岡市	2021/10/4
	静岡県看護協会認定看護管理者研修フ ァーストレベル ヘルスケアシステム 論	静岡県看護協会	静岡市	2021/10
	難病看護学会難病看護師セミナー 難病看護師の実践活動の報告	日本難病看護 学会	静岡市	2021/10
	浜松市における神経難病療養者の在宅 療養支援の状況	浜松市薬剤師会	浜松市	2021/10
	ALSの病態と病期に合わせた看護	聖隷福祉事業団 訪問看護ステー ション定期研修	浜松市	2022/1
Hempstock W e n d y L e a n n e	科学英語プレゼン研修講師	静岡市立 高等学校	静岡市	2021/12/1
	英語プレゼン発表会 指導・助言	静岡市立 高等学校	静岡市	2022/1/1
池田麻左子	第1回スキルアップ研修【医療依存度の 高いこどもと家族のコース】集合研修	日本小児看護 学会	Web	2021/9/4

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	第46回 日本重症心身障害学会学術集会 一般演題「看護ケア・全般」	日本重症心身障害学会	Web	2021/12/10
	障害のある子どもと家族への看護について	豊橋創造大学	愛知県	2021/12/24
	第2回スキルアップ研修【医療依存度の高い子どもと家族のコース】集合研修	日本小児看護学会	Web	2022/2/19
膽畑 敦子	認知症の方への対応	静岡県訪問看護ステーション協議会	三島市	2021/9
	認知症研修	豊橋医療センター	豊橋市	2021/8,9,10
遠藤 りら	静岡県専任教員養成講習会	静岡県看護協会	静岡市	2021/12/15
栗田真由美	保健医療福祉概論 講師	中央医療健康大 学校	静岡市	2021/10
伊藤 純子	浜松チャイルドライン相談員研修会	浜松チャイルド ライン	浜松市	2021/7/17

## 7. 一般を対象とする講演（公開講座,公開実習）等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
藤田 景子	性暴力シンポジウム：暴力サバイバーが出産するとき：求められるケアとは～性暴力被害者支援看護職（SANE）の視点から～	静岡大学 白井千晶	静岡市	2022/1
中川 有加	妊娠中から始める母乳育児	桶谷式母乳育児 推進協会/株式会 社ニコワークス	Web	2021/5/29
鈴木和香子	小児看護の基礎知識	伊豆の国市 シルバー人材セ ンター	伊豆の国 市	2022/11
	ピアサポーター養成研修	静岡県対がん協 会	静岡市	2023/2
前野真由美	第1回医療通訳者および外国人支援者向け 新型コロナウイルス感染症拡大防止の 勉強会	静岡県立大学 令和3年度地 （知）の拠点 （COC）事業	Web	2021/8/22
	第2回医療通訳者および外国人支援者向け 新型コロナウイルス感染症拡大防止の 勉強会	静岡県立大学 令和3年度地 （知）の拠点 （COC）事業	静岡市	2021/11/7
永谷実穂	Women's Health Research Methodology シリーズ 第1回研修会「文献分析とデー タ分析による NVivo セミナー入門」	FUmiHoriguchi ウイメンズヘル ス研究所	Web	2022/2
	Women's Health Research Methodology シリーズ 第2回研修会「さあ,やってみよ う! システムティックレビューの実際-準 備・デザイン・実施-」	一般社団法人 FUmiHoriguchi ウイメンズヘル ス研究所	オンラ イン	2022/3
大和田裕美	ハッピーパパマタニティ講座	place of peace	Web	2021/9/18
池田麻左子	子育て講座「あっ!危ない,子どもの周りに ひそむ危険」	静岡市中央子育 て支援センター	静岡市	2021/12/20
	「小児の急変時対応について」3回コース	浜松市社会福祉 事業団 友愛の さと診療所	Web	2022/3/1

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
伊藤 純子	浜松市男女共同参画事業リプロダクティブヘルス/ライツ講座講師	浜松市	浜松市	2021/8/7

## 8. 一般向け教養書,新聞,雑誌への論評・解説

氏名	活動の種類と活動内容の説明	依頼団体	活動・公表・執筆日	掲載日	掲載場所
なし					

## 9. 新聞等メディアへの掲載・出演

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国/地方版	掲載・出演日
太田 尚子	妊娠8カ月で突然、死産。「ごめんね…」謝り続けたママが「ありがとう」に変わるまで	yahoo ニュース(たまひよ ONLINE)	全国版	2021/9/23
	県立大学看護学部 21 年度まとめ コロナ禍 病院など「臨地実習」減少 現場踏めず悩める学生	静岡新聞	地方版	2022/3/20
富安 真理	訪問看護への期待	静岡県訪問看護ステーション協議会 便り	地方版	2021/9
箕 宗 一	精神疾患高校で学ぶ	中日新聞	全国	2022/3/15
山下 早苗	県立大学看護学部 21 年度まとめ コロナ禍 病院など「臨地実習」減少 現場踏めず悩める学生	静岡新聞	地方版	2022/3/20
鈴木 和香子	小児看護援助論の講義で YouTuber との対談	NHK 総合「目撃！ につぼん」	全国	2021/9/26, 2022/3/6
	小児がん YouTuber との交流	NHK 総合「おはよう日本」	全国	2021/9/26

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国/ 地方 版	掲載・出演 日
前野真由美	外国人支援向け 22 日コロナ勉強会	静岡新聞	地方 版	2021/8/14
大和田裕美	大学の講義 高校生体験	静岡新聞	伊豆・ 東部版	2021/8/4

## 10. その他活動

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
太田尚子	第33回静岡県母性衛生学会学術集会 総会副議長	2021/11/28	静岡市
	静岡県産婦人科医会主催 第13回羽衣セミナー 一般演題 座長	2021/11/28	静岡市
	静岡県ペリネイタル・ロス 自助グループ交流会・報告会 (web)	2022/1/28	静岡市 (web)
山田紋子	静岡県立大学から発信する女性のための健康講座：乳がんから自分の身体を守ろう	2021/11/7	
林みよ子	特定行為研修講義演習 (5コマ)	2021/05/21 (2コマ) 06/29 (1コマ), 09/03 (2コマ)	
	特定行為研修臨地実習指導 (実習計画, 実施評価, まとめ)	2021/10/01- 2022/01/07	
荒井孝子	国際医療福祉大学大学院特定行為研修管理委員会	2021/4~2022/3	
	静岡済生会総合病院 地域医療支援病院運営委員会	2021/4~2022/3	
	看護師特定行為研修指定研修機関意見交換会	2022/3	
富安真理	看護学部附属看護実践センター センター研究員	2021/4~2022/3	
	第12回日本在宅看護学会 イブニングセミナー 座長	2021/11/13	
山下早苗	静岡県立こども病院 看護研究に関する講師	2022/1~3	
	静岡県立こども病院 CCU 病棟 看護倫理カンファレンスにおける教育的支援	2022/1~3	
山口みのり	第19回日本看護技術学会学術集会 一般演題 査読・座長	2021/4~2021/10	
	NTT 東日本伊豆病院看護研究指導	2021/4~2022/3	
中川有加	2022年度助産師国家試験全国統一模擬試験 問題校閲	2021/4~2022/3	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
成瀬 早苗	看護実践教育研究センター 地域貢献事業 「健康長寿を支える」	2021/4/1～2022/3/31	
	静岡県立大学から発信する女性のための健康講座	2021/11/7	
鈴木 和香子	難病のこどもネットワーク しぞーかキャンプ 実行委員	2011～	
鈴木 千智	静岡市新任期保健師研修（2・3年目）にて、講義（1回）と研修成果に対する助言・講評（2回）を行った	2021/5～2022/3	
前野 真由美	第24回外国人のための無料健康相談と検診会 1. 静岡済生会総合病院 2021年11月21日 2. 医療・通訳・市民ボランティアとの打合せ 3. 実行委員会会議（夜） 2時間/月	2021/4/1～2022/3	
福島 恭子	静岡県立大学から発信する女性のための健康講座：子宮脱を自分でコントロールしよう！	2021/11/1	
永谷 実穂	「女性健康相談室」小鹿キャンパス内で月に1回女性への健康相談を実施	2021/3～	
	「アロマの会」精神障害を持つ方を対象にアロマを用いたプログラム実施と更年期女性の健康のアドバイス	2021/10/28	
	静岡県立大学から発信する女性のための健康講座	2021/11/7	企画・運営・実施
加納 江理	浜松市神経難病療養者支援者の会代表	2021/4～2022/3	
	浜松市オレンジけあねっと委員	2021/4～2022/3	
三崎 健太郎	2021年度放射線教材コンテスト 参加	2021/12	
Hempstock Wendy Leanne	ボランティア活動： 静岡市立御幸町図書館で外国語読み聞かせ	2021/7,10,12	
	ボランティア活動： プロギング静岡・静岡県内のゴミ拾い	2022/1～	
中岡 正昭	看護師特定行為研修 （臨床病態生理,臨床推論,疾病病態, 医療安全特定行為,フィジカルアセスメント）	2021/4/15,30,6/24,25 7/2,5,21	



氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
飯塚真樹	健康文化交流館『来・て・こ』&静岡県立大学 「ふじのくに」みらい教育センター(COC)共 催 地域在高齢者対象 健康講座 「県大生と熱中症予防と体操で夏を乗り越え よう！」	2021/4~9	発展看護 実習の一環
	静岡県立大学から発信する女性のための 健康講座	2021/9~11	企画・運営
宮澤典子	NPO 法人静岡難病ケア市民ネットワークスタ ッフとして難病患者さんのためのイベントや 講演会の準備・参加を行う。	2021/4~2022/3	
高木静	静岡県助産師会写真展の開催 小鹿キャンパス事務棟共有スペース	2021/4/1~5/7	静岡県 助産師会 共催
	妊娠期父親講座 ハッピーパパマタニティ講座の開催	2021/9/18	NPO 法人 place of peace 共催
	妊娠期産後夫婦向け講座 もうすぐ赤ちゃんがやってくるの開催	2022/1/22	NPO 法人 place of peace 共催
大和田裕美	静岡県立大学から発信する女性のための 健康講座	2021/9~11	企画・運営
池田麻左子	看護学部附属看護実践教研究センター センター研究員 特定行為研修講義・演習	2021/4/1~2022/3/31	
丸山始美	静岡県立大学から発信する女性のための健康 講座	2021/10~11	運営
榊みのり	第24回日本腎不全看護学会学術集会・総会 シンポジウム1「非がん患者のACP」座長	【現地開催 + ライブ 配信】2021/11/13 【オンデマンド配信】 2021/11/26~12/13	
遠藤りら	静岡県立大学から発信する女性のための 健康講座	2021/11/7	企画・運営
栗田真由美	静岡難病ケア市民ネットワー ク運営及び事務局	2020/4~	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
安藤 継子	静岡市新任期研修アドバイザー	2021/4～2022/3	

## 11. 静岡県立大学新型コロナウイルスワクチン職域接種従事者

### 1回目接種（8月30日～9月8日）

荒井孝子	操華子	田中範佳	堀芽久美
山口みのり	中川有加	鈴木和香子	杉山眞澄
管原清子	加藤京里	福島恭子	根岸まゆみ
中岡正昭	鈴木郁美	宮澤典子	高木静
池田麻左子	丸山始美		

### 2回目接種（9月27日～10月6日）

林みよ子	荒井孝子	操華子	篁宗一
山下早苗	畑中純子	鈴木和香子	杉山眞澄
鈴木千智	福島恭子	根岸まゆみ	倉本直樹
高木静	大和田裕美	池田麻左子	丸山始美
安藤継子			

## 12. 「県民の日」事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により対面式のツアーは中止となった。本学では動画や写真による「オンライン県大ツアー2021」を実施し、本学部は公衆衛生看護学領域の教員が動画「うんこの世界へようこそ！」を作成しホームページに掲載した。2021年3月下旬までに視聴回数は780回を超えた。

### 13. 高大連携による講師派遣等

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
夢ナビ講義	田中 範佳	手術を受ける患者さんの不安,気に留める必要がある？	1～3		2021/7/10
静岡県立清水南高校	丸山 始美	国家資格である看護師になるための道とその特徴	2	20	2021/7/7
静岡県立榛原高校	堀 芽久美	静岡県立大学看護学部の紹介	3	20	2021/7/15
富士市立高校	長澤 利枝	看護職とは&大学における看護教育の現状等	2	40	2021/7/19
静岡県立富士東高校	大和田裕美	いのちを支える看護の仕事	1～3	27	2021/7/21
静岡県立富士宮東高校	山下 早苗	看護の魅力（国内外の小児看護の現状）	1～3	20	2021/7/27
静岡学園高校	成瀬 早苗	看護の仕事について・静岡県立大学看護学部について	1～3	25	2021/7/28
静岡県立三島北高校	畑 中 純子	看護という仕事	1	30	2021/9 27
静岡県立沼津城北高校	大和田裕美	看護を学ぶー女性と家族を支える母性看護学ー	2	21	2021/9/29
静岡県立沼津西高校	山口みのり	看護師の仕事と役割	2	25	2021/9/30
静岡県立浜松湖南高校	篁 宗 一	看護学部の紹介と心のケアについて	1	40	2021/10/7
静岡県立富士宮北高校	永谷 幸子	地元の医療現場の問題とそれに取り組む看護師の役割	1・2	30	2021/10/7
静岡県立三島南高校	田中 範佳	看護師に求められる資質や心構え	2・3		2021/10/12
静岡県立富士宮西高校	中川 有加	命をつなぐ看護師の仕事	1・2	55	2021/10/12
静岡県立浜名高等学校	富安 眞理	地域共生社会の形成に期待される看護職の役割	2	40	2021/11/4
静岡市立高校	Hempstock Wendy Leanne	静岡県立大学看護学部の紹介	1・2	59	2021/12/8

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
静岡県立 下田高校	福島恭子	今,どのような看護師が必要 とされているか	2	30	2021/12/17
静岡県立 富士東高校	鈴木和香子	SDG s しののめ探求ゼミ	2	60	2022/3/10

## 14. 公開講座等の開催状況

講義は地域への開放と共に学ぶ機会の提供を目的とし、公開可能な講義を公開した。開催時期、テーマ、講師、参加者数は、次表(8-11-1)の通りである。

表 8-11-1 令和3年度特別講義実施状況

	開催日	講義の名称	講師	参加者・人数
1	7/19(月)	パートナーシップ・ナースングシステム (PNS)	橘 幸子	教員、院生、学部生 16名
2	9/3(金)	Narrative 研究法 narrative 分析の誘い	宮坂道夫	教員、院生、学部生 他 52名
3	11/2(火)	神経難病者と家族の体験	佐久間勇人	教員、院生、学部生 128名
4	11/15(月)	多数傷病者発生時の医療機関の対応	石松伸一	院生、県内外看護師、医師 36名
5	11/25(木)	周産期医療と生命倫理	加部一彦	教員、院生、学部生 28名
6	11/26(金)	子ども虐待予防と母子・精神保健 ～支援者として知っておくべきこと	鷺山拓男	院生、学部生 127名
7	12/20(月)	災害看護セミナー	和泉成子	教員、院生、学部生 他 115名
8	1/6(木)	看護者に必要なセクシャルマイノリティの現状と支援	藤井ひろみ	教員、院生、学部生 他 28名
9	1/6(木)	看護師になる人が予め知っておくと良いいくつかのこと	宮子あずさ	教員、院生、学部生 118名
10	2/21(月)	質的研究論文のサブストラクション	北 素子	教員、院生、学部生 27名
11	2/21(月)	医療従事者による IPW	小林利彦	教員、院生、学部生 31名
12	2/1(火)～ 2/18(金)	他職種連携の体制構築に向けて	横山直司	オンデマンド 再生回数 49回

## IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について

### 1. 設置の趣旨

本学は、中期計画に掲げる重点課題に積極的に取り組み、本県の地域医療における課題解決や県民の健康長寿を支える知の拠点として、地域に貢献することが求められている。

現在、厚生労働省では、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しており、全国の自治体で取組が進められている。

例として、本学が所在する静岡県静岡市の静岡型地域包括ケアシステムでは、住み慣れた自宅で人生の最期まで自分らしく暮らせるよう、静岡市の特徴である地域の「つながる力」を活かして健康寿命が長い「元気な高齢者」が活躍できるように、医療・介護の専門職の連携による支援の輪と、地域の市民の連携による支援の輪を構築し、この二つの支援の輪が連携して、本人・家族を支援する仕組みが推進されている。

### 2. センターの設立概要

#### （設立趣旨）

社会的要請に応えるべく地域包括医療を遂行するための有効なヘルスケアを実践し、医療機関・福祉機関・保健機関と地域との協働・連携を円滑に運営できる看護実践家を創出すること、ケアのパフォーマンスを向上させる教育・研究・開発を促進させ、その成果を地域や国内外へ還元することを目的として設置した。

#### 1) 看護実践家に対するリカレント教育と共同研究開発

厚生労働省が主導する「特定行為に係る看護師の研修制度」の指定研修機関として、「特定行為研修」を運営する。本制度は、「高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効果的かつ効率的に提供する体制を整備し、患者ができるだけ早く社会に復帰し、地域で継続して生活を送れるようにする」ことを方向性とする「2025年に向けた医療提供体制の改革」の一環として創設されたものである。現在、特定行為として38行為が定められているが、本センターでは、その内の地域・在宅医療において患者ニーズに即応するために必要な行為に関する研修を実施する。

また、地域の医療・福祉・保健機関からの要請に従い、これまで個別に対応してきた看護学関連の講義・研究指導といったリカレント教育を本センターで開講する。

これらの教育研修を総合的にマネジメントし、かつ看護実践家と看護学部・看護学研究

科との共同研究開発を推進する役割を担う。

## 2) 看護学教育に関する情報の発信拠点

本センターにおいては、看護学部・看護学研究科で蓄積されている在宅看護学、公衆衛生看護学、基礎看護学、慢性看護学、急性期看護学、がん看護学、精神看護学、小児看護学、国際看護学、老年看護学、助産学の最新知見を活用し、本学の他学部・他研究科とともに学術的な連携をし、その成果を地域に発信・還元し、研究交流を活性化する拠点とする。

## 3) 看護学教育に関する国際交流の推進拠点

2018年から取り組むCOIL事業において、特に看護学部のある上智大学、ポートランド大学、ボストンカレッジとの教育研究交流を推進させるとともに、すでに国際看護実習を相互で実施しているタイ国コンケン大学等のアジア圏における教育プログラムの開発を推進し、国際交流の拠点とする。

### (組織体制)

組織体制は、以下のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター研究員
- (4) センター客員研究員
- (5) センター職員

## 3. センターの設置時期

令和2年12月1日

## 4. センターの運営

### 1) 組織体制の整備

看護学部教授会にて、当初センターの運営については特定行為研修指定機関申請を鑑み、以下の通りとなった。

- |            |                  |
|------------|------------------|
| (1) センター長  | 荒井 孝子 (教授 環境看護学) |
| (2) 副センター長 | 林 みよ子 (教授 成人看護学) |

- (3) センター研究員 田中 範佳 (教授 成人看護学)  
 富安 眞理 (教授 在宅看護学)  
 池田麻左子 (助教 小児看護学)  
 中岡 正昭 (助教 成人看護学)

以後、事業の展開に合わせてセンター研究員の承認を行うこととした。

承認済の教員 (2020年12月1日～2022年11月30日)

荒井 孝子	富安 眞理
林 みよ子	池田 麻左子
田中 範佳	中岡 正昭

承認済の教員 (2021年4月1日～2023年3月31日)

太田 尚子	杉山 真澄	加藤 京里	安藤 継子
山田 紋子	鈴木 千智	佐藤 瑠美	飯塚 眞樹
井上 健一郎	中川 有加	管原 清子	膽畑 敦子
山下 早苗	永谷 幸子	鈴木 和香子	遠藤 りら
畑中 純子	成瀬 早苗	永谷 実穂	大和田 裕美
操 華子	藤田 景子	根岸 まゆみ	栗田 眞由美
	堀 芽久美	濱井 妙子	高木 静
	山口 みのり	福島 恭子	丸山 始美

承認済の教員 (2021年8月1日～2023年7月31日)

日當 聡志	森野智子 (短期大学部)
-------	--------------

## 5. 特定行為研修

### 1) 特定行為研修 指定研修機関の申請

令和2年11月17日付けで、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令(平成27年厚生労働省令第33号)第6条の規定に基づき、指定研修機関の指定申請を行った。

### 2) 指定研修機関の指定

令和3年2月22日付け厚生労働省発医政0222第2号をもって、保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)第37条の2第2項第5号に規定する指定研修機関として指定された。また、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同



項第4号に規定する特定行為研修に関する省令（平成27年厚生労働省令第33号）別表第4備考第5号に係る領域別パッケージ研修の実施について認定された。

#### 特定行為区分（6区分）

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

ろう孔管理関連

創傷管理関連

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

#### 領域別パッケージ研修（1領域）

在宅・慢性期領域

### 3) 看護師特定行為研修 研修生の募集

別添（看護師特定行為研修の概要）参照。

### 4) 入講試験の実施

出願受付期間を令和3年8月2日（月）から8月20日（金）とし、2名の応募があった。令和3年9月2日（木）に入講試験を行い、2名が受験した。令和3年9月8日（水）に合格発表を行い、2名が合格した。定員に満たないため、二次募集を実施することとした。出願受付期間を令和4年1月11日（火）から1月28日（金）とした。事前相談については2名あったが、出願はなかったため2次試験は実施せず、次年度の入講生は2名で確定した。

### 5) 看護師特定行為研修の実際

#### (1) 共通科目と区分別科目の研修

令和3年4月2日（金）に入講式を行い、研修オリエンテーションやガイダンスを実施し、早速共通科目及び独自科目の研修から開始した。研修は、E-ラーニングによる受講、webによるオンライン授業、オンデマンド授業の視聴等により順調に進み、7月には対面による演習を行った。区分別科目については、在宅・慢性期領域パッケージ研修および選択科目であるインスリン投与量の調整について、共通科目同様にE-ラーニングによる受講、webによるオンライン授業および実技演習等を実施した。区分別科目においては特定行為に関する実技があるため、外部講師による胃ろうチューブの交換、気管カニューレの交換、デブリートメント、エコー機器の操作など具体的な行為について演習を実施した。選択科目の履修を終了したところでOSCEを実施し、合格に達したことを確認した。

#### (2) 特定行為研修（外部施設における臨地研修）

10月より特定行為研修の臨地研修を開始した。所属施設での研修が実施できなくなった

ため、研修受け入れを依頼している JA 静岡厚生連清水厚生病院、榛原総合病院、公益社団法人有隣厚生会富士病院に研修を受け入れていただいた。業務の傍ら、研修生は自ら研修調整を行い、積極的な学習ができた。12 月末に規定の症例数を研修することができ、研修の到達基準を満たしたため臨地研修を終了した。研修中は、メンターを担当する教員から適宜面談指導を受けながら、指定された学習、記録等に熱心に取り組んだ。医療安全上の問題もなかった。

### (3) 東海北陸厚生局への手続き

令和 3 年 4 月に担当教員の変更を含めた変更申請を行った。また、研修施設の変更・追加に伴い令和 3 年 10 月に変更申請を行った。令和 4 年 1 月 21 日の研修修了に伴い、修了の届出を実施した。以後、年度報告および令和 4 年 4 月のカリキュラムの追加および講師の変更に伴う変更申請を予定している。

## 6. その他センターの運営事業

### 1) 看護実践教育研究センター主催事業について

令和 3 年 11 月 7 日に「静岡県立大学から発信する女性のための健康講座～ミドル&シニア世代のこころと身体を支える～」をテーマとして開催した。静岡県内に在住する 30 歳以上の女性を対象とし、①イキイキと更年期とつき合おう！②子宮脱を自分でコントロールしよう！～セルフマネジメントによる女性の健康生活改善計画～③乳がんから自分の身体を守ろう！知ろう、話そう、大切なおっぱい、の講座を開催した。参加者は、①が 5 名、②が 8 名、③が 5 名であった。アンケートの結果からも好意的な評価が得られた。広報の期間が短かったこと、広報活動が拡大できなかったことが課題であり、次年度は早期にテーマ、実施時期を決定し、地域への広報活動を行っていく必要があると思われる。

### 2) 次年度以降の事業開催準備について

令和 4 年より看護研究の基礎講座および統計講座を企画・開催するために、静岡県立大学看護学部付置看護実践教育研究センター社会人学習講座受講料に関する内規を作成し、教授会にて承認された。

## (別添) 看護師特定行為研修の概要 (一部抜粋)

### 1. 看護師特定行為研修の理念

静岡県は、「人生の最期までずっと住み慣れた自宅で自分らしく暮らせる」ために、静岡市の地域のつながる力と元気な高齢者の活躍を基盤にした静岡型包括ケアシステムをはじめ、県内各自治体は、さまざまなシステム構築に取り組んでいる。

本学は、静岡県下唯一の県立大学として、静岡県の目指す在宅医療の充実に応えるべく、地域で療養する人々やその家族の生活を支えるために必要な、より専門性の高い知識と技術を備え、在宅医療に関わる多職種チームの中で中核的役割を担い得る、自律して活動できる看護師を育成することを理念とする。

### 2. 看護師特定行為研修の目的

本研修は、地域で療養する人々やその家族のニーズに応え、安全に特定行為を実践できる専門性の高い知識と技術を備えた、地域医療に貢献できる看護師を育成することを目的とする。

### 3. 看護師特定行為研修の目標

- 1) 地域医療の現場において、患者の病態の変化や疾患を迅速かつ包括的にアセスメントし、状態を的確に判断できる能力を養う。
- 2) 地域医療の現場において、特定行為を実践する上で必要な知識・技術・態度の基礎的能力を養う。
- 3) 地域医療の現場において、患者の安心・安楽に配慮して特定行為を安全に実施できる基礎的能力を養う。
- 4) 地域医療の現場における問題解決に向けて、多職種と効果的に協働・連携できる能力を養う。
- 5) 自らの実践を見直しつつ標準化する能力を養う。

### 4. 研修概要

本研修では、すべての特定行為区分に共通する「共通科目」とそれぞれの特定行為に必要な「区分別科目」、本学が独自設定する「独自科目」で構成し、講義、演習、実習で学習する。「共通科目」から学習を始め、試験に合格し履修認定された後に「区分別科目」を学習

する。「独自科目」はこれらの学習と並行して学習する。

本学は、静岡県での在宅医療推進に寄与する人材育成を目指すことから、「在宅・慢性期領域パッケージ」と、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の必修2コースと、受講生のニーズに応じて選択できる2つの特定行為（「血糖コントロールに係る薬剤投与関連：インスリンの投与量の調整」「感染に係る薬剤投与関連：感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与」）を提供する。

#### 1) 必修の2コース

Aコース：【在宅・慢性期領域】パッケージコース

Bコース：【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】区分コース

<各コースに含まれる特定行為>

Aコース：【在宅・慢性期領域】パッケージコース

[気管カニューレの交換]

[胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換]

[褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去]

[脱水症状に対する輸液による補正]

Bコース：【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】区分コース

[持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整]

[脱水症状に対する輸液による補正]

#### 2) 選択可能な区分別科目

Aコースで選択できる1科目

[血糖コントロールに係る薬剤投与関連]

Bコースで選択できる2科目（1科目選択も可能）

[血糖コントロールに係る薬剤投与関連]

[感染に係る薬剤投与関連]

## 5. 本学における看護師特定行為研修の特色

共通科目・区分別科目は、eラーニングでの学習を主とするが、集合教育による学習も取り入れており、研修者同士の相互学習や指導者との対話を通して学習を深めることができる。

また、本研修は、大学が開催するものであり、本学看護学部・看護学研究科の教育環境下で、大学保有のパソコンや関連機器、図書館、看護教育用シミュレーター・トレーニングモデルを用いて学習でき、共通科目・区分別科目の他に本学独自科目2科目を置き、単に特定行為を実施するための技術教育にとどまらず、医学的視点に偏りがちな特定行為を看護学の視点を持って統合的に看護を実践するために必要な学習ができる。

加えて、本研修は、静岡県下の在宅医療に積極的に取り組む多くの施設の協力を得て運営

するため、静岡県下の地域医療施設の実情に即した研修ができる。

## 6. 研修内容と時間

### 1) 共通科目 252 時間（表中の数字は時間数）

科目名	e ラーニング	講義	演習	実習	試験	合計
臨床病態生理学	○	27	2	0	1	30
臨床推論	○	36	6	4	1	47
フィジカルアセスメント	○	39	3	3	1	45
臨床薬理学	○	35	9	0	1	45
疾病・臨床病態概論	○	34	4	0	2	40
医療安全学／特定行為実践	○	22	13	0	1	45

・講義・試験は e ラーニング、演習・実習は集合研修で行う。

### 2) 在宅・慢性期領域パッケージ 69 時間（表中の数字は時間数）

区分科目名	e ラーニング	講義		演習	実習	合計
呼吸器（長期呼吸療法にかかるもの関連） 【共通】呼吸器（長期呼吸療法にかかるもの関連） 【区分】気管カニューレ交換	○	9		1	各 5 症例	10
ろう孔管理関連 【共通】ろう孔管理関連 【区分】胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	○	17		1	各 5 症例	18
創傷管理関連 【共通】創傷管理関連 【区分】褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	○	27		1	各 5 症例	28
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 【共通】栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 【区分】脱水症状に対する輸液による補正	○	12		1	各 5 症例	13

・講義・試験は e ラーニング、演習・OSCE・実習は集合研修で行う。

3) 区分別科目 68 時間 (表中の数字は時間数)

区分科目名	e ラーニング	講義	演習	実習	合計
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 【共通】栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 【区分】持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 【区分】脱水症状に対する輸液による補正	○	17	2	各 5 症例	19
感染に係る薬剤投与関連 【共通】感染に係る薬剤投与関連 【区分】感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	○	27	4	各 5 症例	31
血糖コントロールに係る薬剤投与関連 【共通】血糖コントロールに係る薬剤投与関連 【区分】インスリンの投与量の調整	○	15	3	各 5 症例	18

・講義・試験は e ラーニング、演習・OSCE・実習は集合研修で行う。

4) 本研修の独自設定科目 30 時間 (表中の数字は時間数)

科目名	e ラーニング	講義	演習	試験	合計
地域在宅療養支援論	○	15	0	0	15
課題研究	○	6	9	0	15

・講義は e ラーニング、演習は集合研修で行う。

・終了後に課題レポートを提出する

## 7. 修了要件

次の要件をすべて満たすこと

- 1) 共通科目を履修し、筆記試験・観察評価等に合格する。
- 2) 所定の区分別科目を履修し、筆記試験・観察評価、一部の科目では実技試験に合格する。

なお、修了者には、保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 1 号に規定する特定行為及び同項第 4 号に規定する特定行為研修に関する省令に基づき、修了した特定行為区分ごとの修了証を交付し、研修修了者の名簿を厚生労働省に提出する。

## 8. 定員

5名

## 9. 研修期間

10ヶ月間

## 10. 研修受講資格

次の要件をすべて満たすこと。

- ・日本の看護師免許を有する。
- ・看護師免許取得後、通算5年以上の実務経験を有する。
- ・心身ともに健康である。
- ・研修修了後、特定行為の実践を通して地域医療の発展に寄与する予定である。
- ・所属長の推薦があり、所属施設における特定行為実践の協力が得られる。
- ・日本看護協会看護師賠償責任保険等の賠償責任保険に加入している。